

2014 年度

博士論文

現代語における感情用言の形式と意味

清水泰行

関西学院大学大学院文学研究科

要旨

本研究は、現代語においてこれまであまり注目されてこなかった、感情用言（感情動詞と感情形容詞の二つに大別される）が関わる、次の（1）から（5）のような現象を取り上げ、それぞれの形式と意味の観点から、感情用言を全体的に捉えるものである。

- （1）感情動詞の「誘因」「対象」と格標示（第1章）
 - a. 物音_ニ驚く／知らせ_ニ喜ぶ（「誘因」）
 - b. 再会_ヲ喜ぶ／戦争_ヲ憎む（「対象」）
 - c. 歌手_ニ憧れる（「対象」）
- （2）感情動詞の特異なガ格（第2章）

「私は、もう、船_ガ飽き飽きしました」
- （3）感情形容詞のヲ格（第3章）

「十分間、時間_ヲ欲しいの」
- （4）現代語のサニ構文と一語化構文（第4章）
 - a. 祖父は、孫の喜ぶ顔_ガ／を見たさに豪華なおもちゃを買った（サニ構文）
 - b. 少年は、遊興費欲しさにひったくりを繰り返した（一語化構文）
- （5）形容詞語幹型感動文（第5章）
 - a. 「薄っ」「軽っ」「長っ」（属性形容詞によるもの）
 - b. 「彼氏が欲しっ」「お酒が、飲みたっ」（感情形容詞によるもの）

第1章では、（1）のような感情動詞が、「消費税増税の決定に国民は「信を問え」といらだった」のように、「引用構文」（藤田 2000）の形をとる場合に着目して考察する。その結果、①感情動詞による「引用構文」において、「刺激－応答」関係、「主題－説明」関係という二つの意味関係があること、②「刺激－応答」関係における「刺激」を「誘因」、「主題－説明」関係における「主題」を「対象」と捉え直すことで「対象」を共通して持つグループがまとめられることを述べる。また、「喜ぶ」を用いた調査によって、③共起する名詞がニ格とヲ格でそれぞれ、「意外性」、「期待性」という異なる意味特徴を持つことを示した上で、④格と意味役割において、ニ格と「誘因」、ヲ格と

「対象」という対応およびニ格と「対象」というずれがあることを明らかにする。

第2章では、感情動詞が特異なガ格をとる(2)のような文について、特異なガ格の出現条件を明らかにするために、感情形容詞文との構文的特徴に着目して検討する。その結果、特異なガ格の出現条件として、①ニ格をとる感情動詞が述語であること、②「誘因」ないし「対象」を表す名詞句としてコトをとること、③特定の感情を引き起こす候補としての複数の「誘因」ないし「対象」の中から、話し手が一つを選んでいること、という三つがあることを述べる。さらに、この三つの条件が成立する理由について、感情形容詞文との意味・構文的な対応とガ格の用法の観点から説明する。

第3章では(3)のような現代語におけるヲ格をとる感情形容詞について、ヲ格の出現条件を明らかにするために、感情形容詞を語構成の観点から分類し検討する。感情形容詞と感情動詞の対応に着目して考察し、ヲ格の出現条件として、①感情動詞から感情形容詞が派生していること、②感情動詞の連用形に接尾辞が下接していること、③対応する感情動詞が「対象」の意味役割を持つ名詞句としてモノをとり得ること、④対応する感情動詞がヲ格をとること、という四つがあることを述べる。さらに、この四つの条件が成立する理由について、感情形容詞がヲ格をとる場合とガ格をとる場合の統語構造(補文構造、単文構造)の観点から説明する。

第4章では、現代語における(4a)のようなサニ構文並びに(4b)のような一語化構文について、「～サニ」において格助詞が現れる環境を明らかにするために、新聞を主としたデータベースを用いた調査を行い検討する。「～サニ」における統語構造と名詞句の性質に着目して考察し、格助詞が出現しやすい環境として、①「～サニ」を構成する用言が補文構造を持つ場合、②「～サニ」を構成する用言がとる名詞句に名詞修飾がある場合、③補文内の動詞のとる名詞句が指示代名詞である場合、という三つがあることを述べる。さらに、「金が欲しさ」が「複合化」することで「金欲しさ」という語が形成されるというようなプロセス(影山 1993)を想定し、この三つの環境が「～サニ」における接尾辞「サ」の機能(一語化)を妨げるように働くことで格助詞を出現しやすくすると分析する。

第5章では(5)のような、形容詞語幹が声門閉鎖を伴って発話され、感動の意味が表現上実現する文(形容詞語幹型感動文と呼ぶ)を扱い、「感動の対象」を表す「主語」をとるかとらないかに着目して考察する。その結果、形容詞語幹型感動文について、①即応性と対他性による分析から、構造上の「主語」をとらないと考えられること、②「これうまっ！」における「これ」のような形式は、話し手が聞き手に注意喚起を呼び掛けるための「感動の対象」の提示部であること、③形容詞語幹型感動文を構成

する形容詞の性質の違い（属性形容詞か感情形容詞か）の観点から、属性形容詞によるものと感情形容詞によるものの二種に大別できること、④属性形容詞によるものも感情形容詞によるものも体言化形式を持ち、名詞句として感動の表出に用いられることで同じ感動文として機能すること、という四つを述べる。

なお、本論文の第1章は清水（2007）、第3章は清水（2013）、第4章は清水（2011）に基づくものである。

目次

第1章 感情動詞の格と意味役割の対応・ずれ	1
1. はじめに	1
2. 感情動詞の分類	2
3. 「引用構文」における名詞句と引用節の関係	4
3.1 ニ格誘因型感情動詞	6
3.2 ヲ格型感情動詞	7
3.3 両用型感情動詞	8
3.4 ニ格対象型感情動詞	9
3.5 一般的ではない格をとる感情動詞	9
3.6 「刺激－応答」「主題－説明」関係から見た「誘因」「対象」	11
4. 「誘因」と「対象」の意味役割	12
4.1 「喜ぶ」と共起した名詞と格標示	12
4.2 修飾語と格標示	13
5. おわりに	15
第2章 感情動詞の特異なガ格	17
1. はじめに	17
2. 感情動詞のとり特異なガ格	20
3. 感情形容詞の構文的特徴	22
4. ガ格「誘因／対象」型感情動詞文のガ格の出現条件	22
5. 三つの出現条件の成立についての考察	25
6. おわりに	29
第3章 感情形容詞のヲ格と語構成	30
1. はじめに	30
2. ヲ格をとる感情形容詞	32
3. 感情形容詞の分類	34
4. 感情形容詞のヲ格の出現条件	38

5. 感情形容詞のヲ格の出現条件の成立についての考察	40
6. おわりに	43
第4章 現代語のサニ構文と語形成	45
1. はじめに	45
2. 現代語のサニ構文	46
3. 調査方法	47
4. 調査結果	47
4.1 「かわいい」「恋しい」「欲しい」が使われる場合	48
4.2 「-たい」が使われる場合	49
4.2.1 サニ構文の格標示の種類と一語化構文の出現性	49
4.2.2 名詞修飾とサニ構文の出現率	51
4.2.3 指示代名詞と格標示率	53
5. サニ構文の出現環境	54
5.1 出現環境Ⅰ	54
5.2 出現環境Ⅱ	56
5.3 出現環境Ⅲ	56
6. サニ構文の出現環境の成立についての考察	57
7. サニ構文の「～サ」と「句の包摂」	60
8. おわりに	61
第5章 形容詞語幹型感動文の構造	63
1. はじめに	63
2. 形容詞語幹型感動文と「主語」の分析	64
2.1 「句的体言」の構造による分析	65
2.2 「小節」の構造による分析	66
2.3 構造上の「主語」の問題	67
3. 主語的共起要素を伴う場合と伴わない場合	69
3.1 即応性	69
3.2 対他性	71
4. 形容詞語幹型感動文の主語的共起要素の扱い	74
5. 形容詞語幹型感動文の分類と構造	76

6. おわりに	83
まとめ	84
引用文献	86
用例出典	91

第1章

感情動詞の格と意味役割の対応・ずれ

1. はじめに

「人の内的事象」を捉える動詞¹，すなわち感情動詞には（1a）のように二格をとるものと，（1b）のようにヲ格をとるものがある。その格と意味役割²に関して，二格は「誘因（原因）」，ヲ格は「対象」といった対応があるとされてきた（寺村 1982，杉岡 1992，益岡・田窪 1992 など）。

- (1) a. 物音ニ驚く／知らせニ喜ぶ
b. 再会ヲ喜ぶ／戦争ヲ憎む

しかし一方で，格と意味役割にずれが生じている，「対象」の二格も指摘されている。寺村（1982：226-227）では，「恋スル，惚レル，アコガレル，感謝スルのように感情を表わすもの」は「直接受身」になるということから，「対象」を二格でとるとしている³。次の（2）に寺村（1982：227）の用例を挙げる。

- (2) a. 女は男から好かれ，男から惚れられるものよ。
(山本周五郎「なんの花か薫る」)

¹ 「人の内的事象」を捉える動詞群は，工藤（1995）において「内的情態動詞」として分類されている。

² 本研究を通して，格助詞で明示される形式を格と呼び，その形式が担う意味を意味役割と呼ぶ。

³ 佐藤（1997）は，寺村（1982）を受けて二格をとる感情動詞を分析し，「直接受身」になる二格は「感情の対象（Target of Emotion）」であり，ならないものは「原因（Causer）」であるとしている。

b. 男ガ女ニ惚れる

感情動詞の格と意味役割に関しては、対応・ずれがそれぞれ指摘されてきたが、両者の関係について整合的な説明がされるには至っていない。そこで、本章では感情動詞の格と意味役割の対応・ずれを体系的に提示することを目的とする。

本章は次のように構成される。まず次節では、考察の前提として、本章および本研究で扱う感情動詞について述べる。続く 3 節では、「～ト」で示される引用節を伴う感情動詞（「引用構文」）に着目し、引用節と格標示された名詞句との関係によって、感情動詞の格と意味役割の対応・ずれを明らかにする。それにより、従来指摘されてきた、「直接受身」を基準として区別されるニ格が、「引用構文」においても並行的に分析される。4 節では、「喜ぶ」においてニ格・ヲ格のそれぞれと共起する名詞に偏りが見られることを指摘し、「誘因」と「対象」の意味役割について考察する。

2. 感情動詞の分類

感情動詞は、とる形式（格）に着目すると、

- A. ニ格をとるもの（ニ格型感情動詞と呼ぶ）
- B. ニ格とヲ格の両方をとるもの（両用型感情動詞と呼ぶ）
- C. ヲ格をとるもの（ヲ格型感情動詞と呼ぶ）

の 3 種類に分けられる⁴。本章では、寺村（1982）に従い、「直接受身」になるかならないかを基準として、ニ格型感情動詞をさらに 2 種類に分類する⁵。ここでは、「直接受身」にならないものをニ格誘因型感情動詞、「直接受身」になるものをニ格対象型感情動詞と呼んで区別する。よって、感情動詞は

⁴ 両用型感情動詞について指摘し、感情動詞を 3 分類した先行研究に Bando (1996) がある。

⁵ 寺村 (1982) の第 3 章では、「直接受身」になるものを他動詞とし、他動詞については、「対象を表わす名詞が「ヲ」をとるものと、「ニ」をとるものとある」と述べている。感情動詞（ニ格をとるものとヲ格をとるものの両方）は「直接受身」になるという統語的特徴から他動詞として捉えられるが、本章では、感情動詞の自他の問題については立ち入らない。感情動詞の自他の区別については、三原 (2000) が論じている。

(3) のように四つの型に整理できる。このうち、(3a②) の二格対象型感情動詞が、格と意味役割にずれが見られるものである。

(3) a. 二格型感情動詞

①二格誘因型

あきれる、あせる、あわてる、いじける、いらだつ、うっかりする、うっとりする、うろたえる、うんざりする、おごる、おじける、おどろく、おののく、おびえる、おろおろする、がっかりする、ぎょっとする、こまる、こりる、しょげる、じれる、しんみりする、てれる、はしゃぐ、はっとする、はにかむ、びくつく、びっくりする、びびる、ほっとする、まごつく、むくれる、めげる

②二格対象型

あきる、あきあきする、あこがれる、こがれる、ほれる、ほればれする、むかつく

b. 両用型感情動詞

いかる、いきどおる、うれえる、おこる、おそれる、かなしむ、くやむ、くるしむ、たのしむ、ためらう、なげく、なやむ、ひがむ、よろこぶ

c. フ格型感情動詞

あなどる、あやしむ、あやぶむ、あわれむ、いたむ、いつくしむ、いとう、いとおしむ、いぶかしむ、いぶかる、いむ、いやしむ、うたがう、うとむ、うとんじる、うやまう、うらむ、うらやむ、おしむ、きらう、このむ、さげすむ、したう、すく、そねむ、たつとぶ、とうとぶ、なつかしむ、にくむ、ねたむ、めでる

感情動詞の選択にあたっては『分類語彙表』を参考にした。分類は実例を根拠に行っている⁶。そのため、個人の内省による判断と分類に差が生じる

⁶ 本章で用いたデータベースは、『朝日 DNA～聞蔵（きくぞう）～』、『産経新聞ニュース検索

場合があるかもしれない。両方の格をとることが確認できた感情動詞であってもどちらかの格に極端に偏っていたものに関しては、両方の格をとることが一般的とは考えられないため、両用型感情動詞には分類していない。両用型感情動詞には偏りが比較的小さいものを選んでいる。よって、(3a, c)において、一般的とは言えないが別の格（二格型感情動詞：ヲ格，ヲ格型感情動詞：ニ格）をとることが確認できた感情動詞が存在する。このような感情動詞には下線を付してある⁷。

感情動詞には二格やヲ格に加えて、「～ト」の引用節をとる場合がある。本章では、感情動詞の格と意味役割の対応・ずれを考察するために、「～ト」の引用節をとるもの（「引用構文」）に着目する。

3. 「引用構文」における名詞句と引用節の関係

「引用構文」とは、引用節が、述語（述部）と相関する構造を持つ文のことである（藤田 2000）。藤田（2000）は、「引用構文」の引用節と述語（述部）において、「事実上等しい動作・状態」を表す「具体－抽象の二重表現的構造」のもの（「第Ⅰ類」）と「共存する動作・状態」を表す「並示的構造」のもの（「第Ⅱ類」）という、二つの構造があることを明らかにした。次の（4）に藤田（2000：30-31）からの用例を挙げる。（4a）は「第Ⅰ類」、（4b）は「第Ⅱ類」の構造をもつ。

- (4) a. 葉子も何かしら気のおける連中だと思った。
(有島武郎「或る女」)
- b. 私だけが上ると、三階の汚い四畳半で、若い貧乏な友人が、「やア」と起き上がった。
(尾崎一雄「暢気眼鏡」)

サービス the Sankei Archives』、『日経テレコン 21』、『毎日 News パック』、『ヨミダス文書館』である。

⁷ 一般的ではない格をとる場合の感情動詞に関しては、3.5 節で議論する。

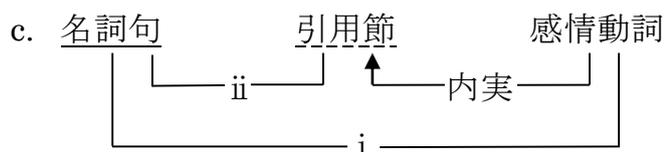
一方、感情動詞が「引用構文」の形をとるものを観察すると、その引用節は感情動詞で表される感情と等しいものであることが分かる。(5a, b)に感情動詞による「引用構文」の用例を挙げる。

- (5) a. 齊藤さんの妻の恂子さん(六三)は「花が例年より遅くて気をもんだ。咲いてほっとしました」と、「春の使者」の姿に喜んでいた。

(『朝日』1996年1月24日、朝刊)

- b. 雨の後は特に色が鮮やかで、12日は訪れた人が紫や白、黄といった多彩な花を「さすがにきれい」と喜んでいた。

(『朝日』(2002年6月13日、朝刊)



(5a)の引用節「花が例年より遅くて気をもんだ。咲いてほっとしました」と(5b)の引用節「さすがにきれい」は感情動詞「喜ぶ」の内実を具体的に表現している。よって、感情動詞による「引用構文」は「第I類」の構造をとると考えられる。この「第I類」の構造を、感情動詞による「引用構文」に当てはめて考えると、引用節とニ格やヲ格で標示された名詞句と感情動詞の関係は(5c)のように捉えられる。感情動詞の意味的特徴は共起する名詞句と密接な関係を持つと考えられるが、その関係は感情動詞と名詞句を(5c i)のように直接的につなげてみても明示的ではない。しかし、感情動詞の内実を示す引用節を用いることで、感情動詞と名詞句の意味的関係を具体的な(5c ii)の関係として捉え直すことができる(例えば(5a)において、「春の使者」の姿」と「花が例年より遅くて気をもんだ。咲いてほっとしました」が結ぶ関係は、「春の使者」の姿」と「喜んでいた」が結ぶ関係より具体的に捉えられる)。引用節と名詞句の意味的関係が明らかにできれば、その関係によって「誘因」、「対象」の意味役割が捉えられる。そ

ここで、格標示された名詞句と引用節との関係について考察する⁸。考察は次節から感情動詞の型ごとに行う。

3.1 二格誘因型感情動詞

引用構文で用いられる二格誘因型感情動詞を観察してみると、二格で標示された名詞句が刺激となって感情が生まれ、その感情の応答・反応が引用節として表出されるという関係が多く見られるように思われる。

- (6) この7月、高校1年の娘が突然、バツサリ髪を切って帰宅した。おそらく40センチは短くなったであろう姿に「随分思い切ったなあ」と驚いた。

〔朝日〕2005年8月19日、朝刊

- (7) 声変わりしたばかりの初々しい舞い手に、「ほんとに隣の〇〇君なの？」とうっとりしたり、おどけ役のひょうきんなしぐさや、アドリブがポンポン飛び出す方言に笑い興じたり……。

〔朝日〕1999年9月3日、朝刊

- (8) 住専処理への公的資金導入や、消費税率アップといった決定に国民は何度「信を問え」といらただただろうか。

〔朝日〕1996年9月20日、朝刊

(6) においては、「おそらく40センチは短くなったであろう姿」の知覚がきっかけとなり、「随分思い切ったなあ」という「驚き」の感情表出がある。(7)、(8)においては、「声変わりしたばかりの初々しい舞い手」、「住専処理への公的資金導入や、消費税率アップといった決定」によって、引用節のような「恍惚」、「いらだち」といった感情表出がある。このような関係を「刺激－応答」関係と呼ぶ。

⁸感情動詞による「引用構文」は、いわゆる「認識動詞構文」とは性質が異なる。それは、「認識動詞構文」は、ヲ格名詞句と引用節に語順上の制約があるのに対し(益岡1987:145)、感情動詞による「引用構文」においては格標示された名詞句と引用節に語順上の制約が見られないからである。さらに、感情動詞による「引用構文」においては、引用節は省略が可能である。

3.2 ヲ格型感情動詞

引用構文で用いられるヲ格型感情動詞を観察してみると，ヲ格で標示された名詞句が感情を抱いている人にとっての主題となり，引用節で説明・判断がされるという関係が多く見られるように思われる。

- (9) 「現場にあったやつと同じだ」と答える伊藤さんを，刑事は「現場のことを詳しく知り過ぎている」と怪しんだ。

（『朝日』1988年11月29日，夕刊）

- (10) 「日本開催なら」「急造チームでなければ」といった見方を，山中監督は「言い訳になる」と嫌った。

（『朝日』1995年6月30日，朝刊）

- (11) 霍は「私は美術学部，陳凱歌は監督学部，張芸謀は撮影学部の同期。専攻を超えて切磋琢磨（せっさたくま）する雰囲気があった」と学生時代を懐かしむ。

（『朝日』2006年6月15日，朝刊）

(9) においては、「疑念」を抱いている「刑事」が、「現場にあったやつと同じだ」と答える伊藤さん」について、「現場のことを詳しく知り過ぎている」と判断している。(10)，(11) においては、「嫌悪」，「懐古」といった感情のもと，名詞句を主題として引用節において説明がされている。このような関係を「主題－説明」関係と呼ぶ。

「主題－説明」関係として捉えられるということは，ヲ格で標示された名詞句を「主題」の「～ハ」で言い換えることによって確認できる。

- (9) 「現場にあったやつと同じだ」と答える伊藤さんハ「現場のことを詳しく知り過ぎている」
(10) 「日本開催なら」「急造チームでなければ」といった見方ハ「言い訳になる」

- (11) 学生時代ハ「私は美術学部，陳凱歌は監督学部，張芸謀は撮影学部
の同期。専攻を超えて切磋琢磨する雰囲気があった」

3.3 両用型感情動詞

両用型感情動詞による「引用構文」に関しては，ニ格とヲ格の両方をとるため，それぞれを分けて述べる。ニ格をとる両用型感情動詞の場合は，ニ格で標示された名詞句と引用節の間に，「刺激－応答」関係が多く成り立つ。

- (12) 南極点到達の知らせに喜一さんは「横断成功ではないが初志を貫いたのだから，よくやったとほめてやりたい」と喜ぶ。

(『朝日』1989年12月12日，夕刊)

- (13) クマの被害にあった地元では「クマとの共存なんてとんでもない」と保護論者の声に怒る。

(『朝日』1988年10月29日，夕刊)

ヲ格をとる両用型感情動詞の場合は，ヲ格で標示された名詞句と引用節の間に，「主題－説明」関係が多く成り立つ。

- (14) バレンタイン監督との再会，アロマーらと並んでの入団発表……。
そのすべてを「すごくうれしい」と喜んだ。

(『朝日』2001年12月22日，朝刊)

- (15) 試合は3-23の大差で負けた。このとき監督の本多は，点差ではなく，勝ちたいという気持ちが薄れていると，選手を怒った。

(『朝日』1997年7月11日，朝刊)

これまでの分析から，感情動詞による「引用構文」において，「刺激－応答」関係における「刺激」はニ格，「主題－説明」関係における「主題」はヲ格で標示されるという対応が浮かび上がる。しかし，このような対応が見られないものがある。それが，次節で示すニ格対象型感情動詞である。

3.4 二格対象型感情動詞

二格対象型感情動詞による「引用構文」においては、二格で標示された名詞句と引用節の間に、「主題－説明」関係が多く成り立つ。「主題－説明」関係が成立しているにもかかわらず、その「主題」が二格で標示されているという意味において、ずれが生じている。

- (16) 地元の野球チームでは右翼手。「守備がうまくてかっこいい」と、プロ野球選手のイチローにあこがれる。

(『朝日』2006年7月12日，朝刊)

- (17) それまで、取引先の接待は苦痛でたまらなかったが、ある人に紹介された吟醸酒に「なんてうまいんだ」とほれた。

(『毎日』2002年11月1日，朝刊)

- (18) 夕暮れの日と川に溶け合ったような姿 (筆者注：撮影の際の公募モデルの姿) に、僕とヘア&メイクの新井さんなんか「いいなー、いいなー」って惚れ惚れしていたんだけど。

(『朝日』2002年10月11日，週刊，週刊朝日)

二格対象型感情動詞の二格は「主題」の「～ハ」で言い換えることができる。引用節は二格で標示された名詞句についての特徴や性質が述べられている部分である。

- (16') プロ野球選手のイチローハ「守備がうまくてかっこいい」

- (17') ある人に紹介された吟醸酒ハ「なんてうまいんだ」

- (18') 夕暮れの日と川に溶け合ったような姿ハ「いいなー、いいなー」

3.5 一般的ではない格をとる感情動詞

感情動詞は一般的にとるとされる以外の格をとる場合がある。次の(19)にヲ格型感情動詞が二格をとった場合、(20)に二格誘因型感情動詞がヲ格

をとった場合、(21) に二格対象型感情動詞がヲ格をとった場合の用例を挙げる。

- (19) 麻酔医は、心臓病患者の背中にあった心不全のはり薬や髪の毛の長さにいぶかりながらも、別人だとまでは考えが及ばなかった。

(『読売』1999年2月25日，東京朝刊)

- (20) 木村健自治医科大学教授（消化器内科）は最近の消化性潰瘍の治療の変貌ぶりを驚く。

(『朝日』1998年4月13日，週刊，アエラ)

- (21) 人は有名な場所をあこがれる一方で、なんとなく敬遠する気持ちもあるものだ。

(『朝日』2004年6月7日，朝刊)

一般的ではない格をとる感情動詞も「引用構文」の形をとるものがある。その「引用構文」においては、(22) のように二格をとる場合は「刺激－応答」関係、(23)、(24) のようにヲ格をとる場合は「主題－説明」関係が多く成り立つ。

- (22) 初めての海外勤務に周囲は「六十を過ぎて何で外国に?」といぶかった。

(『朝日』1995年1月5日，朝刊)

- (23) 「TVガイド」の小林武範編集長は、サップの人気ぶりを「過去に例がない」と驚く。

(『朝日』2003年1月27日，週刊，アエラ)

- (24) 「若いのに出来る男だ」といった兄や父たちによる子規の噂（うわさ）話は聴いていた。その子規や兄たちの集まりを、「口には天下国家を論じ、筆には漢文以外のものは書こうとしなかった」とあこがれる。

(『朝日』1999年7月2日，朝刊)

一般的ではない格をとる場合（ヲ格型感情動詞：ニ格，ニ格誘因型感情動詞とニ格対象型感情動詞：ヲ格）でも，ニ格が「刺激－応答」関係，ヲ格が「主題－説明」関係に対応することは，「主題－説明」関係の成立にもかかわらず，その「主題」がニ格で標示されるという，ニ格対象型感情動詞のずれを際立たせている。

3.6 「刺激－応答」「主題－説明」関係から見た「誘因」「対象」

前節までの考察によりニ格対象型感情動詞のずれ（ニ格：対象）が示された。一方，「主題－説明」関係の成立という観点に着目すると，ニ格対象型感情動詞はヲ格型感情動詞や両用型感情動詞（ヲ格をとるもの）と意味的に類似した性質を持っているということになる。このことから，感情動詞全体は，二つのグループ（「刺激－応答」，「主題－説明」）に大別できる。

- (25) a. 「刺激－応答」グループ
 - ニ格誘因型感情動詞
 - 両用型感情動詞（ニ格をとるもの）
- b. 「主題－説明」グループ
 - ニ格対象型感情動詞
 - 両用型感情動詞（ヲ格をとるもの）
 - ヲ格型感情動詞

「刺激－応答」関係における「刺激」を「誘因」，「主題－説明」関係における「主題」を「対象」として捉え直すと，(25a)の「刺激－応答」グループは「誘因」，(25b)の「主題－説明」グループは「対象」の意味役割を共通して持つと考えることができる。一方，「誘因」，「対象」に関しては，これまでラベルが貼られただけで，違いを実証するということがされていない。そこで，次節では，「誘因」，「対象」の意味役割がどのようなものかについて考察する。よって，ニ格対象型感情動詞に関しては，前節までのようにず

れが取り上げられるのではなく、「対象」の意味役割を持つという、「主題－説明」グループとしての共通点が取り上げられることになる。

4. 「誘因」と「対象」の意味役割

ここでは、「刺激－応答」, 「主題－説明」の両方のグループにまたがる両用型感情動詞（「喜ぶ」）に着目し、共起する名詞がニ格とヲ格で異なっていることを示すことによって、「誘因」, 「対象」について考察する。

4.1 「喜ぶ」と共起した名詞と格標示

「喜ぶ」と共起する名詞についてのデータは、朝日 DNA（朝日新聞社）において、以下に挙げる名詞との「AND 検索」によって得たものである⁹。「AND 検索」に用いた名詞は、「反響, 贈り物, プレゼント, 知らせ, 判決, 勝訴, 収穫, 再会, 当選, 成功, 合格, 豊作, 失敗」の 13 種類である¹⁰。データの範囲は、1984 年 8 月から 2003 年 12 月までである¹¹。

表 1 「喜ぶ」と共起した名詞と格標示

格標示 \ 名詞	反響	贈り物	プレゼント	知らせ	判決	勝訴	収穫	再会	当選	成功	合格	豊作	失敗
ニ格	15	17	36	18	12	2	2	6	3	2	0	0	0
ヲ格	5	8	20	12	15	12	27	144	79	45	38	22	5
合計	20	25	56	30	27	14	29	150	82	47	38	22	5
ニ格(%)	75	68	64	60	44	14	7	4	4	4	0	0	0

⁹ このデータベースには、『AERA』, 『週刊朝日』のデータも含まれており、それぞれデータ収録の開始時期は異なっている。また、著作権などの関係で本文を表示できない記事に関しては、データの範囲外とした。

¹⁰ 「AND 検索」に用いた名詞は、ニ格・ヲ格との共起を調べた予備調査の結果において、共起頻度の高かったものである（ただし、「失敗」は「成功」の対義語としてデータを収集した）。予備調査では、ヲ格、ニ格が「喜ぶ」に隣接しているものを見た。

¹¹ 「喜ぶ」を分析対象としたのは、用例数が多いことによる。また、漢字の「喜ぶ」の他に、ひらがなの「よろこぶ」も分析対象としている。ただし、「悦」などの別表記の「よろこぶ」に関しては分析対象としていない。

ここで、仮に、格標示の偏りによって、全体を三つのタイプに分ける。ニ格で標示される割合が高かった名詞をニ格型，ニ格，ヲ格で標示される割合が同程度（50±10%）であった名詞を中間型，ヲ格で標示される割合が高かった名詞をヲ格型とする。

- (26) a. ニ格型：反響，贈り物，プレゼント
b. 中間型：知らせ，判決
c. ヲ格型：勝訴，収穫，再会，当選，成功，合格，豊作，失敗

ニ格型の名詞は、はっきりと予想、予定ができないような、「意外性」のあるものである。一方、ヲ格型の名詞は、全て待ち望むような、「期待性」のあるものとなっている。特に、ヲ格型における「失敗」の用例は、「期待性」に関して示唆的である。常識的には喜ぶべきではない「失敗」は、望まれて喜ばれるものとなっているからである。

- (27) 自分より成績の良い生徒の失敗を喜び，教師受けの良い子は「ブリっ子」といじめられる。

（『朝日』1992年12月23日，朝刊）

- (28) 「建物に掲げてあった赤旗は，全部ロシア共和国の旗になっていた」
「みんなクーデターの失敗を喜んでいた」。ソ連共産党の建物には，
人の姿はなかったという。

（『朝日』1991年9月8日，朝刊）

また、「知らせ」、「判決」は、意外なものや待ち望むものからの中立的な意味によって、中間型に位置していると考えられる。

4.2 修飾語と格標示

前節では、名詞の意味が格との共起に影響することを示した。しかし、それは、意味によってニ格かヲ格のどちらかの格としか共起しない名詞があるということの意味するわけではない。用例を詳しく見ると、ニ格で標示され

た名詞に、「思わぬ、予想外の」といった意味を持つ修飾語（「思わぬタイプ」の修飾語と呼ぶ）が多く伴っていることが分かる。

次の(29)に「反響」、(30)に「プレゼント」に伴っていた修飾語を、それぞれの格ごとに分けて示す¹²。(29)、(30)における下線を付した分数は、それぞれの格において、修飾語を伴っていた名詞の数を「喜ぶ」と共起した名詞の総数で除したものである。

(29) 「反響」に伴っていた修飾語

a. ニ格 13/15（「思わぬタイプ」の修飾語は 13 例中 11 例）

思わぬ 5, 予想以上の 4, 予想外の 2/大きな 2

b. ヲ格 2/5（「思わぬタイプ」の修飾語は 2 例中 0 例）

大きな 2

(30) 「プレゼント」に伴っていた修飾語

a. ニ格 34/36（「思わぬタイプ」の修飾語は 34 例中 24 例）

思わぬ 15, 思いがけない 8, 突然の/一足早い 2, 音楽や手紙の, 下駄の, 手作りの, 通産省からのいきな, 日本からの, 帆船航海の, 父の, 没後 60 年の区切りの年の

b. ヲ格 18/20（「思わぬタイプ」の修飾語は 18 例中 3 例）

旅先での思いがけない, 思いもよらなかった, 思わぬ/一足早い 2, 一カ月早い, スイスからの, 粋な, 善意の, 高校生らの, 幼稚園に通う長女が摘んだ草花の, 折り紙の, 砂糖を食べずにためたというこの, まくら元に新聞紙に包まれていた, りんごと黄色い箱のミルクキャラメル, 個展の, 一生懸命作った, この

(29)、(30) は、ニ格で標示された「反響」「プレゼント」に、「思わぬタイプ」の修飾語が多い（「反響」：13 例中 11 例、「プレゼント」：34 例中 24 例）のに対し、ヲ格で標示された「反響」「プレゼント」に、それが少ない（「反響」：2 例中 0 例、「プレゼント」：18 例中 3 例）ことを示す。このことは、ニ格で標示された名詞が「意外性」でもって捉えられているという 4.1

¹² 「クリスマスプレゼント」のような「名詞+名詞」の形をとる複合名詞は、修飾語をとらない名詞としている。

節の分析を裏付けている。

4.1 節と 4.2 節の分析から、ニ格とヲ格では結びついている意味の特徴が異なることが示された。この異なりは、ニ格で標示された名詞句とヲ格で標示された名詞句がそれぞれ異なった意味役割を持っていることから生じていると解釈できる。この解釈のもとで、寺村（1982）に従うと、両用型感情動詞のニ格は「誘因」、ヲ格は「対象」と捉えることができる。

5. おわりに

本章では、感情動詞による「引用構文」における二つの意味関係（「刺激－応答」関係、「主題－説明」関係）から、格と意味役割の対応・ずれについて考察した。また、両用型感情動詞の「喜ぶ」を用いて、共起する名詞がニ格とヲ格で意味的に異なっていること（ニ格と共起：「意外性」、ヲ格と共起：「期待性」）を示し、「誘因」、「対象」を捉えた。格と意味役割と「引用構文」における関係についてまとめると、次の表 2 のようになる。

表 2 格と意味役割と「引用構文」における関係

型	例	格	意味役割	「引用構文」における関係
ニ格誘因	物音ニ驚く	ニ	誘因	刺激-応答
ニ格対象	歌手ニ憧れる	ニ	対象	主題-説明
両用	知らせニ喜ぶ	ニ	誘因	刺激-応答
	再会ヲ喜ぶ	ヲ	対象	主題-説明
ヲ格	戦争ヲ憎む	ヲ	対象	主題-説明

表 2 は、感情動詞において、ニ格対象型感情動詞を除けば、ニ格は「誘因」、ヲ格は「対象」という対応が見られることを示している。ニ格対象型感情動詞は、ニ格が「対象」という意味においてずれている。

ただし、表 2 で示したような、感情動詞の型ごとの「引用構文」における関係は、全ての用例において成り立つわけではない。では、どの程度、感情動詞の型と「刺激－応答」関係、「主題－説明」関係それぞれが相関するのであろうか。両用型感情動詞「喜ぶ」を用いて、具体的な値を示しておく。「喜ぶ」による「引用構文」のデータは、『朝日 DNA』（朝日新聞社）において、(ア) ニ格およびヲ格をとる「喜ぶ」を収集、(イ) そのうち、引用節と

共起するものを抽出、という順序で得たものである¹³。データの範囲は1984年8月から2003年8月までである。

調査結果は、ニ格をとる場合には「刺激－応答」関係が63%の割合で成り立ち、ヲ格をとる場合には「主題－説明」関係が82%の割合で成り立つというものであった¹⁴。よって、「引用構文」による分析は、傾向差のあるデータをもとにしているということになる。しかし、「引用構文」による分析結果は、先行研究に対応しており、妥当性があると考えられる。

本章は、感情動詞の格と意味役割においてニ格対象型感情動詞がずれているということ、先行研究の「直接受身」という視点とは別の「引用構文」という視点から指摘したという意味合いを持つ。今後の課題として、「直接受身」の観点に加え、「文法的なヴォイスの対立¹⁵」についても、考察を行いたい。また、本章においては、ニ格対象型感情動詞のニ格とヲ格型・両用型感情動詞のヲ格が、同じ「対象」という意味役割で捉えられることを述べた。ニ格の中にヲ格に類似した性質を持つものがあるということはこれまでに指摘されてきたが（杉本 1991 など）、しかしニ格とヲ格という異なった形式で現れている以上、そこには何らかの差があるはずである。山田（1936：413-415）は、ニ格は「静的目標」、ヲ格は「動的目標」の性質を持つとしているが、このようなニ格とヲ格の意味の差を、「対象」という意味役割の中でどのように捉えるのかについては本研究のまとめで示したい。

¹³ ニ格をとるデータは272例、ヲ格をとるデータは930例であり、「引用構文」の形をとっていたものは、それぞれ、19例、197例であった。なお、このデータに関して注意点を挙げておく。（ア）において収集したニ格およびヲ格をとる「喜ぶ」は、それぞれの格が「喜ぶ」に隣接しているもののみである。そのため、ニ格、ヲ格をとる全用例が収集できていない。また、格が「喜ぶ」に隣接するということは、引用節が格標示された名詞句より必ず先行しているということの意味する。

¹⁴ データの内訳は、引用節とニ格をとるもの：「刺激－応答」関係12例、「主題－説明」関係7例、引用節とヲ格をとるもの：「刺激－応答」関係35例、「主題－説明」関係162例である。

¹⁵ 「文法的なヴォイスの対立」は、野田（1991a, 1991b）において「増減型」、「交替型」、「間接型」の3種類に区別されている。

第2章

感情動詞の特異なガ格

1. はじめに

本章では、感情を表す動詞（感情動詞）が特異なガ格をとる（1）のような文について考察する。

- (1) a. 「まだ、ZOILIA（ゾイリア）の土を踏むには、一週間以上かゝりませう。私は、もう、船が飽き飽きしました。」
(芥川龍之介「MENSURA ZOILI」, 『芥川龍之介全集第二巻』所収)
- b. そもそもわたしは、講演というものはしない、と決めております。これはわたしの掟でありまして、講演という時間的な束縛が困るからなのです。
(安野光雅『空想書房』, 『BCCWJ』所収)
- c. リンクに入れる蜂蜜は、国内レースでは現地調達が多く、「地元の方が『これ使って』とくれることもある」。海外産を使ったこともあったが、「やはり国産が安心する」。
(『朝日』2013年11月24日, 朝刊, 西スポーツ特集1)

寺村（1982）によれば、感情動詞は（2a, b）のように「誘因」をニ格、（2c,d）のように「対象」をヲ格でとるとされる²。

- (2) a. 物音ニ オドロク／オビエル／ギョットスル

¹ 鉤括弧に入った部分は、マラソンランナーの発言の引用である。

² 「恋する」「惚れる」「あこがれる」「感謝する」のように「対象」をニ格でとる感情動詞も指摘されている（寺村 1982 : 226-227）。

- b. ソノ結果ニ 失望スル／ガッカリスル
- c. 人ヲ 愛スル／憎ム
- d. 彼ヲ ウラヤム／ウラム／ネタム

(1) における感情動詞は、「～ニあきあきする」「～ニ困る」「～ニ安心する」のように二格をとる類型³に当てはまるものであるが、二格ではなくガ格をとっている。本章では、(1) のような文をガ格「誘因／対象」型感情動詞文と呼ぶ。

ガ格「誘因／対象」型感情動詞文は、「アナタハ日本語ガ解リマスカ」のように、いわゆる「状態述語⁴」が「対象」をガ格でとるという現象（久野 1973, 柴谷 1978, 眞野 2008 など）と一見類似するように思われる。久野（1973）は「状態を表わす他動詞，他形容詞，他形容動詞⁵が目的語をマークする助詞として「ガ」をとる」という分析を行い、「意味の上から目的格助詞「ヲ」が現われることが期待される所に「ガ」が現れる」と考え、これらの現象を統一的に扱っている。一方，感情動詞は「状態述語」と言えないため（三原（2000），三原（2004）は，感情動詞を Vendler の動詞分類における「活動動詞（activity verb）」に位置付けている），ガ格「誘因／対象」型感情動詞文は，「状態述語」の場合と同様の現象と見ることはできない。例えば，(2) における感情動詞について，「誘因」ないし「対象」をガ格でとるようにすると，(3) のように非文法的になる。

- (3) a. *物音が 驚く／おびえる／ぎよっとする
- b. *その結果が 失望する／がっかりする
- c. *人が 愛する／憎む
- d. *彼が うらやむ／うらむ／ねたむ

³ 第1章では，二格をとる感情動詞を，二格で「誘因」をとるもの（「二格誘因型」），二格で「対象」をとるもの（「二格対象型」）に分けた。この他に，二格とヲ格の両方をとるもの（「両用型」）も指摘した（「両用型」は二格で「誘因」，ヲ格で「対象」をとるもの）。

⁴ 「状態述語」については，眞野（2008：68）に従い，「述語の語彙的アスペクトの観点から定義される状態的な性質を持つ述語」と捉えておく。

⁵ 「状態を表わす他動詞」としては「解る」「聞こえる」など，「他形容詞」としては「欲しい」「こわい」など，「他形容動詞」としては「上手」「好き」などが挙げられている（久野 1973：50）。

二格をとる感情動詞は、寺村（1982）における「動的事象の描写」と「性状規定」の中間に感情表現を並べる類型では、「動作・出来事の表現」と隣接するものとして位置付けられている。この点において、二格をとる感情動詞は「動的」な性質を持つために、「状態述語」がとるようなガ格と結び付きにくいと考えられる。実際、(1)のような例は、文脈なしで日本語母語話者に見せると、程度差はあるが不自然と判断されることが多い。しかし、このような例は、新聞や書籍などの活字媒体にも出現することがあり、また次の(4)のように、インターネット上では多く確認される。なぜこのような特異な文法的振る舞いが生じるのであろうか。

- (4) a. 放射能が怖い、病気が心配、不況が困る、というのは、結局は、死ぬのが怖い、ということ。

(<http://www.szyy.net/?p=219>)

- b. 「うどんが飽きる」なんて生まれてから考えたことないですね

(<http://udon-zyouhou.info/news08>)

- c. 近所の鬼嫁化もだんだんと進行しつつありますよね。先週の風呂掃除に続いて今回はシャンプーの詰め替えまで東幹久にやらせてしまった井上和香。これは、いつもの東の態度がむかつくこともあるので、すっきりしましたね。

(<http://plaza.rakuten.co.jp/iwapidorama/diary/200511150003/>)

- d. 高層住宅マンション（千葉県美浜区打瀬・幕張）の生活が憧れる。リビングが広々、日当たりが良い、平屋で全てが最高！

(<http://tatamioyaji.cocolog-nifty.com/blog/2009/02/post-8ea0.html>)

- e. かっこいい時と、かわいい時のギャップが惚れる。

(<http://ameblo.jp/iwachi-xoyolo-9o21o/entry-11569564612.html>)

- f. この本に出てくる何人かは、本当に自分の才能を力いっぱい使っ
てのびのび生きてるんだなあと思う。もちろん、当時の時勢柄今
よりも障害も多かったらうけどこの本の中では（書き手次第だ
けど）そういうのが微塵も感じられない。そこが惚れ惚れするよ
なあ。

(<http://utagiku.jugem.cc/?eid=238>)

- g. 確かに24時間ランナーの走る意味もいまいちわからないし、定刻

ピッタリパターンが飽き飽きします。

(<http://takumigallery.blog33.fc2.com/blog-entry-290.html>)

まず事実として言えば、ガ格「誘因／対象」型感情動詞文において、述語に現れるのは原則として二格をとる感情動詞に限られ⁶、「感情主」が明示されない(1b, c)のような形をとるのが普通である。また、二格をとる「困る」のような感情動詞は、「アイツハ酒グセガ悪クテ困ル(「アイツ」が困っているのではない)」のように「話し手自身のその時の気持の状態を主観的に表出する」場合にも使われ、感情形容詞と共通した性格を持つとされていることも注目される(寺村 1982: 145-151)。このように二格をとる感情動詞が「誘因」ないし「対象」をガ格でとるという現象の出現には何らかの条件があると考えられるが、これまでの研究で踏み込んだ議論はされていない。

そこで本章では、ガ格「誘因／対象」型感情動詞文における特異なガ格の出現条件を、二格をとる感情動詞および感情形容詞文との対応に着目して考察する。以下では、まず次節で先行研究を概観した後、3節で本章の議論に関わる感情形容詞文の構文的特徴について確認する。4節では、感情動詞の特異なガ格の出現条件を示し、続く5節では感情動詞の特異なガ格に出現条件が成立する理由について、感情形容詞文との意味・構文的な対応、ガ格の用法の二点に着目して説明する。

なお、二格をとる感情動詞は、二格が「誘因」の場合と「対象」の場合とがあるが(注2, 注3を参照)、本章では、分析上「誘因」と「対象」を同列に扱い、感情動詞が「誘因」ないし「対象」をガ格でとる仕組みを明らかにする。また、取り上げているのは、一定の条件下で生じる特異な現象であることを注意しておく。

2. 感情動詞のとり特異なガ格

ここでは、感情動詞のとり特異なガ格(「誘因」ないし「対象」のガ格)

⁶ヲ格をとる感情動詞が「対象」をガ格でとる用例は確認できなかった。ただし、二格とヲ格の両方をとるとされる「悩む」「喜ぶ」が、「誘因」ないし「対象」をガ格でとる例はインターネット上で確認できないわけではない(「喜ぶ」の事例については4節で言及する)。

について、分析上想定している堀川（1992）、山岡（2000）と、「困る」におけるル形とタ形の使い分けの検討の中で具体例を示している三枝（2011）を取り上げる。

堀川（1992）は、「困る」のような感情動詞が「君の言動は本当に困ります」のように使われること（「形容詞的用法」）を指摘し、「～ハ」で示される「対象（原因）」がガ格に由来するという（5a）のような「形容詞的用法」の分析を行っている。「形容詞用法」においては、一人称に限られる「感情主」が省略され、「対象（原因）」が主題化された（5b）のような形が普通であるとしている。

- (5) a. 「感情主」ガ 「対象（原因）」ガ 困る
b. 「対象（原因）」ハ 困る

山岡（2000）は「あきれる」「驚く」のような感情動詞が「これはあきれた」「ああ、驚いた」のように「感情表出」という「文機能」を持って使われることを指摘し⁷、一人称の「感情主」（「私」）が情報構造上の前提として常に「命題」の背後にあるという見方で、今問題としている感情動詞のとり「命題」を（6）のように分析している。（6）によると、ニ格あるいはガ格に由来する「Ob（対象格）」が「これはあきれた」においては主題化、「ああ、驚いた」においては省略されているということになる

- (6) (+[Ob]ニ／ガ) +V-ta

三枝（2011）は「困る」におけるル形とタ形の使い分けと意味の違いについて話し言葉コーパスで検討し、ル形とタ形で明示的に取り立てられるものに違いがあることを指摘している⁸。その中で、今問題としているガ格の具体例（「とかっていう性格が」「これが」など）を挙げているが、「～は／

⁷ 「感情表出」の「文機能」は「主語が第1人称経験者格であること」「過去時制辞・taを接続すること」「モダリティ付加辞を接続しないこと」「アスペクト接辞を接続しないこと」という「命題内容条件」を満たすことで生まれるとされている（山岡 2000）。

⁸ 三枝（2011：18）は、「困る」がル形で使われる文においては、一人称の話し手が明示される例はなく（32例中0例）、タ形で使われる文においては、8例中3例で一人称の話し手が明示されていたことを示している。

が／も困る」という文型をとるものとして「～は／が／も」を同列に分析しており、ガ格の特異性を見ようとする論考ではない。

以上見たように、先行研究では、感情動詞のとり特異なガ格について直接の考察対象になっておらず、踏み込んだ議論はされていないが、本章では、実例によって、特異なガ格が出現する条件を考察する。

3. 感情形容詞文の構文的特徴

感情形容詞を述語とする文（感情形容詞文）は、(7a) のような統語構造をとり、「感情主」が主題化され、さらに省略された (7b) のような構文で一般に使われる（寺村 1982）。

- (7) a. 「感情主」ガ／ニ 「対象」ガ 感情形容詞
b. （「感情主」ハ） 「対象」ガ 感情形容詞

寺村（1982）は、感情形容詞文に「感情主」が現れる場合は、(8) のように主題の形をとることを指摘している。

- (8) 私ハソレガコワイ

ガ格「誘因／対象」型感情動詞文は、一人称の「感情主」が (1b, c) のように明示されずに使われるのが普通であるという点、ガ格で「誘因」なし「対象」をとるという点で、感情形容詞文と対応付けることができるように思われる。すなわち、述語の品詞の違いはあるものの、感情形容詞文との構文的な類似性が認められる。

4. ガ格「誘因／対象」型感情動詞文のガ格の出現条件

この節では、前節までの考察を踏まえて、ガ格「誘因／対象」型感情動詞文のガ格の出現条件を示す。はじめに述べたように、ガ格「誘因／対象」型感情動詞文は、述語がニ格をとる感情動詞に限られる。この事実を確認する

ために、第1章で示した感情動詞（「ニ格誘因型」「ニ格対象型」「両用型」「ヲ格型」）について、KOTONOHA『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』（少納言）を用いて調査した。

調査の結果、ガ格をとって出現した感情動詞は、「いらだつ（1）」「うんざりする（1）」「おどろく（1）」「こまる（38）」「びっくりする（1）」「びびる（1）」「ほっとする（5）」（以上「ニ格誘因型」）、「あきる（7）」「むかつく（11）」（以上「ニ格対象型」）、「よろこぶ（7）」（以上「両用型」）であった（丸括弧で用例数を示す）。これらはニ格をとる感情動詞であり、ヲ格をとる感情動詞（「ヲ格型」）で、ガ格をとって出現するものはなかった⁹。この事実をそのまま出現条件として捉えると、まず次の（9）が得られる。

（9）ニ格をとる感情動詞が述語であること（出現条件 I）

次に、前節で見たように、ガ格「誘因／対象」型感情動詞文が感情形容詞文と構文的に類似することに着目する。この類似性は、ガ格「誘因／対象」型感情動詞文に感情形容詞の特徴が反映された結果として生じるのではないかと考えられる。感情形容詞の大きな特徴の一つに、「対象」を表す名詞句としてコトをとることがある¹⁰。これを手掛かりにして、（1）のガ格「誘因／対象」型感情動詞文における「誘因」ないし「対象」を表す名詞句を検討すると、（1b）の「講演という時間的な束縛」、（1c）の「国産」はモノではなく、「講演で時間的に束縛されること」「スペシャルドリンクに国産の蜂蜜を使うこと」というような意味を持つコトであることが分かる。また、（1a）の「船」は表面的にはモノであるように見えるものの、内容的には「船で旅をすること」という意味を持っており、コトと把握される名詞であると言える。このことから、次の（10）のような出現条件があると考えられる。

⁹ 調査で得られたデータに関して注意すべき点を述べておく。第一に、収集した用例が「～ガ困る」のようにガ格が隣接しているもののみであること、第二に、「両用型」（「よろこぶ」）でガ格をとって出現しているものがあることである。第二の点に関しては、ニ格をとる場合の「よろこぶ」がガ格をとっていると考える。なお、「よろこぶ」の7例の用例は、特定の形式（6例は「～の方が喜ぶ」という形式、1例は「AとB、どちらが喜びますか」という形式）で出現しているという点で、別扱いにしておくことも考えられる。

¹⁰ 西尾（1972：22）は、感情形容詞と属性形容詞を分類する基準の一つとして「≪対象＝コト≫が～い（だ）」を挙げている。

- (10) 「誘因」ないし「対象」を表す名詞句としてコトをとること（出現条件Ⅱ）

さらに、ガ格「誘因／対象」型感情動詞文が、文脈なしで使われると容認度が下がることに着目する。(11) のようなガ格「誘因／対象」型感情動詞文の実例と、そこから文脈を取り除いた(12) の例を示す。

- (11) a. 運用におけるリスクとは、利回りが上下にブレることを意味します。当然、下ブレが困りますので、ブレを小さくするために分散投資をします。適切な分散投資と10年以上の長期運用なら、5%の実現も不可能ではないでしょう。

（『朝日』2010年4月10日，朝刊，週末be・b09）

- b. （筆者注：年金改革関連法案が怒号の飛び交う中で強行採決されたことについて）「採決のやり方があきれる。参院選は年金のことを考えて投票したい」と、都内の会社員小貝和二さん（55）は言う。

（『朝日』2004年6月4日，朝刊，2社会）

- c. 雑誌の特集アンケートで、働くママの悩みのトップは子どもとの関係です。時間に追われているのに子どもがくっついてくるので家事も仕事も進まない。でも、そんな考えは子どもに良くないと悩んでいる。2番目が夫との関係。二人とも働いているのに、育児への夫の無関心な態度がむかつくというもの。

（『読売』2006年6月25日，東京朝刊，朝W1）

- d. 女もケラケラ笑って聞いている。ま、いいか、今夜はなりゆきまかせだ。じゃ、もう結婚するつもりはないの？女が男のほうを振り向くと、尋ねた。この手の質問がいちばん困る。肯定すれば、妻を忘れられないのかとか、こりごりなのかといわれる。否定すればなんとなく浮気男の烙印を押されるような気がする。

（山下勝利『いまさら，初恋』、『BCCWJ』所収）

- (12) a. ?運用利回りの下ブレが困る（運用利回りの下ブレに困る）
b. ?採決のやり方があきれる（採決のやり方にあきれる）

- c. ?育児への夫の無関心な態度がむかつく (育児への夫の無関心な態度にむかつく)
- d. この手の質問がいちばん困る (この手の質問にいちばん困る)

(11) と比較して、文脈のない (12) は、(12d) を除いて不自然である。(12d) をひとまず措くと、丸括弧で示した、通常の二格をとる感情動詞による文が文脈なしで自然であることと対照的である。(11a, b, c) を見ると、それぞれに共通する文脈があるように思われる。(11a) では、「上ブレと下ブレでどちらが困るかと言うと (下ブレが困る)」, (11b) では、「年金改革関連法案の審議で何があきれるかと言うと (採決のやり方があきれる)」, (11c) では、「夫との関係で何がむかつくかと言うと (育児への夫の無関心な態度がむかつく)」 というような文脈が想定される。一方、(11d) では、「いちばん」と共起しており、いくつかの候補の中から一つ (「この手の質問」) を選ぶという意味が際立っていることが注目される。この「いちばん」によって、文脈がなくても自然であると考えられる。このことから、ガ格「誘因／対象」型感情動詞文は、当該の問題に対して話し手が持つ感情について、その感情を引き起こす候補としての複数の「誘因」ないし「対象」の中から一つを選ぶというような文脈で使われていると考えられる。

よって、次の (13) のような出現条件があると考えられる。

- (13) 特定の感情を引き起こす候補としての複数の「誘因」ないし「対象」の中から、話し手が一つを選んでいること (出現条件Ⅲ)

5. 三つの出現条件の成立についての考察

前節では、ガ格「誘因／対象」型感情動詞文のガ格に三つの出現条件が成立することを示した。では、なぜこのような出現条件が成立するのであろうか。ガ格「誘因／対象」型感情動詞文と感情形容詞文との意味・構文的な対応、ガ格の用法の二点に着目して説明する。考察の便宜のために、前節で示した出現条件を (14) にまとめて示す。

- (14) a. 二格をとる感情動詞が述語であること（出現条件Ⅰ）
 b. 「誘因」ないし「対象」を表す名詞句としてコトをとること（出現条件Ⅱ）
 c. 特定の感情を引き起こす候補としての複数の「誘因」ないし「対象」の中から、話し手が一つを選んでいること（出現条件Ⅲ）

三つの出現条件のうち、出現条件Ⅰ・Ⅱは感情動詞を感情形容詞に近づけるように働くと考えられる。まず、出現条件Ⅰについては、「時間的限定性」の観点から、「状態」を表す述語であることと相関すると思われる。工藤（2014：47）は、「時間的限定性」の観点から述語の意味的タイプをスケールの違いで捉え、「運動」「状態」「滞在」（以上「時間的限定性」あり）「存在」「特性」「関係」「質」（以上「時間的限定性」なし）に分類している。「状態」を表す述語のうちの動詞は「アスペクト対立がぼやけて、スル形式がテンス的に〈現在〉を表せるようになる」ものとされている。

感情動詞には「そんなこと、困るよ」のようにル形が現在の事態を表すものがあることが指摘されているが（堀川 1992, 山岡 2000, 三原 2000, 小竹・酒井 2011 など）、とる格に着目するとそれらは二格をとる感情動詞と捉えられる¹¹。したがって、出現条件Ⅰによって、二格をとる感情動詞が「状態」を表し得る述語として取り出される。一方、感情形容詞のほとんどが「状態」を表す述語のうちの形容詞に位置付けられるということから、取り出された「状態」を表し得る感情動詞は感情形容詞と同列に位置付けられることにもなると考えられる。次に、出現条件Ⅱについては、名詞句の具体的な意味において感情形容詞との類似性を保つと捉えられる。

出現条件Ⅰ・Ⅱを満たすことで、ガ格「誘因／対象」型感情動詞文の述語が感情形容詞と類似することになるということに関しては、次の（15）と（16）の例が示唆的である。感情形容詞は「感情主」を文中に表す場合に、「～には」「～にとって（は）」という形式をとることもできるが（寺村 1982）、ガ格「誘因／対象」型感情動詞文においてもこれらの形式をとるも

¹¹ 三原（2000）は、ル形が現在の事態を表す感情動詞の例として「悩む、困る、驚く、弱る、焦る、苦しむ、おびえる、まいる、滅入る、まごつく、戸惑う、白ける、ひるむ、めげる、懲りる、失望する、落胆する」を挙げ、これらの感情動詞を二格をとる「自動詞」と分析している。また、山岡（2000：185-188）は、ヲ格をとらないことを、ル形で発話時の感情を表出する「文機能」を持つ感情動詞（「感情表出動詞」）であるための必要条件としている。

のが観察される。

- (15) a. なんでもそうだが、バリで物を買う場合、大量に買うとかなり安くなる。でもバリに初めて行った日本人なら、たった1つ相手の言い値で買って安く感じると思う。我々リピーターには、それが困るんだけどね。みんながたくさんお金払っちゃうから、どんどん価格が上がり上がってしまうんだ。

(http://www.kutapesona.com/br_bali/kyokunbali.html)

- b. (筆者注：滞在したバンコクのホテルについて) 長期滞在者には朝食が飽きる。

(<http://hotels.his-vacation.com/jp/jp/HotelPromotion/BKK01260.aspx>)

- c. (筆者注：コンビニのパンについて) 年寄りには、この濃厚マヨネーズ味が飽き飽きします。

(<http://isawagarden.seesaa.net/article/353656427.html>)

- (16) a. (問) 下流の農区はどうしても被害に遭う。下水に関係ないかもしれないが、上流にたくさん鶏舎があり、川に汚水が流れている。調査を行ったことがあるか。

(答) 鶏舎はコミプラ (筆者注：コミュニティ・プラント) に接続されていない。鶏舎で自己処理して川に流している。

(問) 下流にとってはそれが困る。見解を聞きたい

(平成19年9月21日(金), 『議案第131号』, 姫路市)

- b. 経済制裁が、どれだけイラクにとって困るかということも、私たちが考えているほどではないだろう。空爆の翌朝、町の市場は平常通り開かれていた、という。

(『毎日』1998年12月20日, 東京朝刊・大阪朝刊, 3頁)

- c. 認めるのは癪だが、兄は何もかも揃え持った男だ。そうあるためには相応の努力をしているのだろうが、そんな苦労はチラリとも表に出さず、いつも涼しげな顔つきで達観したことを言う。泰成にとってはそれがどうにもムカつく。どうせ自分は兄のように良くなってきた男じゃない。

(遠野春日『絡みつく視線』, 『BCCWJ』所収)

ガ格「誘因／対象」型感情動詞文が「～には」「～にとって (は)」という形式をとることから、述語の感情動詞が感情形容詞として機能していると考えられる。

さらに、出現条件Ⅲは感情動詞のとり二格をガ格に置き換えるように働くと考えられる。(11) で見たような文脈が必要であることは、名詞述語文におけるガ格の用法とされる「指定」(三上 1953) と結び付けることができるように思われる。三上 (1953) は、次の (17) のような例で「指定」を説明している。

- (17) a. 君ノ帽子ハドレデス?
- b. 幹事ハ私デス
- c. 到着シタノハ扁理デス

三上 (1953) によると、ガ格名詞句と述語名詞句の一致関係を認めるのが「指定」であるため、「～ハ」によって提示される主題を持つ (17) は、(18) のようにガ格を用いた文に変えることができるとされている¹²。

- (18) a. ドレガ君ノ帽子デス?
- b. 私ガ幹事デス
- c. 扁理ガ到着シタンデス

ここで前節の (11) で見た文脈を形式的に整理すると、「～するのは X だ (X は「誘因」ないし「対象」)」というようになる。すなわち、意味構造上、(17) に対応する「指定」と同様に解釈することができる。このことから、文脈上、「誘因」ないし「対象」を表す名詞句に必要とされる意味が「指定」によって表現可能となるために、二格ではなくガ格に置き換わると考えられる。

ガ格「誘因／対象」型感情動詞文が「指定」の文として機能するということに関しては、次の (19) の例を傍証として挙げる。(19) は、ガ格「誘因

¹² 三上 (1953 : 81-82) は、(17) において「～ハ」で提示される主題 (「君ノ帽子」「幹事」「到着」) を「顕題」、(18) において「～ハ」で提示されない主題 (「君ノ帽子」「幹事」「到着」) を「陰題」と呼んでいる。

／対象」型感情動詞文が(18)に対応する「指定」の形式(「Xが～するのだ」)をとって現れている例である。このような事実を踏まえて、ガ格「誘因／対象」型感情動詞文全般において「指定」の意味構造と対応すると捉える。

- (19) a. われわれだって、イングランドという日本語を使うときには、スコットランドやアイルランドを含まない意味に使うだろう。だが、イギリスという言葉が困るのだ。

(田村明『イギリスは豊かなり』、『BCCWJ』所収)

- b. 総論がいけないのではなく、各論の裏づけのない総論が困るのである。

(深代惇郎『深代惇郎の天声人語』、『BCCWJ』所収)

6. おわりに

本章では、ガ格「誘因／対象」型感情動詞文のとり特異なガ格について、三つの出現条件を明らかにした。さらに出現条件が成立する理由について、感情形容詞文とガ格の用法に着目して説明した。取り上げた現象は特異なものであり、文のレベル(出現条件Ⅰ・Ⅱ)と談話のレベル(出現条件Ⅲ)の両面からの支えがあってはじめて成立するものと言える。

第3章

感情形容詞のヲ格と語構成

1. はじめに

形容詞（いわゆる形容動詞も含める）でありながら、ヲ格をとる特殊なものが現代語に存在することは、しばしば指摘される場所である¹。

- (1) a. 「十分間、時間を欲しいの」、唐突に女が言った。
（村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』、『BCCWJ』所収）
- b. 亜紀がかすれた声できいた。「あたしを好きなんでしょう？」
（五木寛之『ローマ午前零時』）（柴谷 1978 : 229）
- c. 大隈重信が葉隠を嫌いだったという説は有名だ。
（『読売』2010年1月6日、西部朝刊）

(1) における「欲しい」「好きだ」「嫌いだ」のような形容詞は、いわゆる感情形容詞（西尾 1972）として分類され、形容詞の中でヲ格をとるのはこの類のものに限られているが（小矢野 1985）、全ての感情形容詞がヲ格を一般にとるわけではない²。例えば、「嫌だ」は「太郎が花子を嫌なんだ」のようにヲ格をとると「逸脱感」が生じる（田村 1971）。同じ感情形容詞であっても、ヲ格のとり方に相違があるのはなぜであろうか。この問題については、「かなりの個人差があるようだ」（柴谷 1978 : 232）、「語彙項目によっ

¹湯澤（1944 : 266）は、「こんな見事な〔瓜〕を欲しくないか（日本月蓋長者）」「お梅〔人名〕を欲しいばかりで...（高野山女人堂心中萬年草）」のような徳川前期に遡る例を挙げている。形容詞のヲ格は「...を...たい」のヲ格とともに、その発生が問題とされてきたが（柴谷（1978 : 231-232）、山田（1964）で先行研究が整理されている）、本章では、ヲ格をとるかどうかを説明することが目的であるため、立ち入らない。

²感情形容詞は「がる」が付加した場合にヲ格をとるが、それは「-がる」という他動詞になることによってヲ格をとるからである（田村 1971 : 31などを参照）。

て、あるいは世代によっても判断が違ってくるようである」(三原 1994 : 139) とされ、これまであまり立ち入られず、十分な説明はされてこなかった³。しかし、感情形容詞全体の中で詳細に見るということはされておらず、検討の余地は残されているように思われる。

本章では、(1) のような感情形容詞のヲ格が何によっているのかを、感情形容詞の語構成からの分析を通して明らかにしようと試みる。語構成に注目するのは、感情形容詞と統語構造上平行的に分析される、「食べたい」のような「希望形」と「飲める」「食べられる」のような「可能形」において、ガ格をとるかヲ格をとるかに相違があり、さらにその相違は、統語構造上の差異を引き起こすような「一語としてのまとまり」という語の性質に帰せられるべきであるとされているからである(田村 1969, 田村 1971)。

考察の前提として、感情形容詞と感情動詞の規定および対応について述べておく。人の感情を表す語彙のうち述語になるものとして、形容詞による感情形容詞と動詞による感情動詞に大別する考え方(寺村 1982) は一般的であるが、それぞれの規定において、意味役割の観点からは、次の(2) のようなものが広く使われていると思われる。

- (2) a. 感情形容詞...「感情主」と「対象」をとるもの
- b. 感情動詞...「感情主」と「誘因」あるいは「対象」をとるもの

(2a) は属性形容詞との関連で規定されるもので、時枝(1941)を始めとする考え方である⁴。(2b) は寺村(1982)による特徴付けである。(2) はそれぞれを述語とする文としては、次のような形でまとめられる(寺村 1982)⁵。

- (3) a. X (感情主) ガ／ニ Y (対象) ガ 感情形容詞

³ 三原(1994 : 139) は、「結局のところ、どの述語がどの格パターンを取るかについては、述語ごとにレキシコンで指定しておく他はないのである」としている。

⁴ 時枝(1941 : 374) は、属性形容詞を用いた「色が赤い」「川が深い」においては、述語によって説明される主体(主語)が「色」「川」であるが、感情形容詞を用いた「水がほしい」「母が恋しい」においては、主語として、「感情の主体である処の「私」か、「彼」か」を想定する必要のあるとしている。「水」「母」は「対象語」として主語と区別される。

⁵ 感情形容詞の「感情主」のとり格については外崎(2000)が統語的に詳しく論じている。感情動詞の「誘因」「対象」のとり格については第1章で述べた。

b. X (感情主) ガ Y (誘因／対象) ニ／ヲ 感情動詞

感情形容詞と感情動詞の対応とは次のようなものである。感情形容詞と感情動詞において、形態的特徴（語根⁶）と意味的特徴（語彙的意味）を共有し、(3a, b) の統語的対応（項 X と項 Y の平行性）を持つ場合に、感情形容詞と感情動詞の対応があると言う（例えば「私が／に息子の成長が楽しい（こと）」と「私が息子の成長を楽しむ（こと）」）。

本章は次のように構成される。まず次節では先行研究を概観し、続く 3 節では、本章および本研究で扱う感情形容詞について、「感情形容詞と感情動詞の対応」という観点から分類して示す。それにより、ヲ格をとる感情形容詞が特定の語構成の型を持つことを指摘する。4 節では感情形容詞のヲ格の出現条件を明らかにし、5 節では、感情形容詞のヲ格に出現条件が成立する理由について、ヲ格をとる場合とガ格をとる場合の統語構造に着目して説明する。なお、本章で考察の対象としている、ヲ格を一般にとるとされる感情形容詞は「きらいだ」「こいしい」「すきだ」「ほしい」の 4 語である⁷。

2. ヲ格をとる感情形容詞

ここでは、感情形容詞がヲ格をとる場合についてまとめている水谷（1964）、柴谷（1978）と、ヲ格の出現を説明しようとしている新屋（1995）とを取り上げそれぞれ検討する。水谷（1964）は「他動詞でなくともヲを取る場合」として、「自動詞」が取るヲと「彼女をすきだ」のヲに大別し、後者のヲは「心情を表わす語に係る名詞について、その名詞のさすものが、その心情の向けられる対象である事を示す」としている。また「xをf」という形において、(4) のようにまとめている（水谷 1964 : 50-51）。

⁶ 本章における語根とは最後に付く接尾辞以前の部分と呼んだ便宜的なものである。

⁷ 田村（1971）では、「こいしい」の取るヲ格は「いやだ」「なつかしい」「こわい」の場合と并列に並べられ、「逸脱感」が生じるものの一つとされるが、「何かを恋しいような気持ちになるのは、不安定な春の天候のせいかもしれない。」（『朝日』2009年3月4日朝刊）のような例（『朝日』『読売』において計 5 例を確認）、「故郷を恋しい」が広く使われるとされている『広辞苑第六版』の「を」の項目における言及などから、一般にヲ格をとり得るものと考えられる。また、この現象は少ない語に生じていることを確認しておく。

- (4) a. ①x は名詞である。(x がさすものを X と書こう。)
 ②f は多くの場合に、いわゆる他動詞であり、時として形容詞またはいわゆる形容動詞である。(f がさすものを F と書こう。)
 ③F は他に影響を及ぼすことが本質的部分と考え得るような動作・作用、またはそのような動作・作用につながる心情の状態である。
 ④X は、③に述べた動作・作用・志向の働きが向けられる対象である。
- b. 表現主体が X を F とこのように関係づけた時、それを「x を f」と表わすのである。

柴谷 (1978) の第 5 章では、ガ格とヲ格の両方をとることができる「状態述語」の例として、「好きだ」「ほしい」のような感情形容詞が取り上げられている。「状態述語」と共起する、今問題としている「直接目的語」については、(5) のように規則化されている (柴谷 1978 : 236)。

- (5) 直接目的語助詞規則
- a. (ア) 状態述語と共起する直接目的語に「が」を付加せよ。
 b. (イ) 直接目的語に「を」を付加せよ。(但し、既に直接目的語助詞規則が適用されている場合には随意的。存在の述語その他のある述語を含む文には不適用。)

新屋 (1995) は、感情形容詞のとりヲ格において「他動性 (transitivity)」という概念が有効であるとし、この概念を用いて考察している。新屋 (1995) の言う「他動性」は、時枝 (1936, 1941, 1950a) による感情形容詞の二分 (「主観的な表現の語」と「主観客観の総合的表現の語」) を踏まえたものである。新屋 (1995) は、(6) のように「他動性」の高低を捉え、「他動性」が高い感情形容詞はヲ格をとるとしている。

- (6) 他動性高 : 「主観的な表現の語」 ⇔ 他動性低 : 「主観客観の総合的表現の語」

さて、以上の先行研究を検討したい。まず水谷（1964）においては、ヲ格について「動作・作用・志向の働きが向けられる対象」（4a④）と説明しているが、この全てがヲ格をとるわけではないので、規定としては不十分であると言わざるを得ない。次に柴谷（1978）においては、(5b)の但し書きにあるように、一部の感情形容詞のみがヲ格を一般にとること、つまり感情形容詞のヲ格の出現を予測できないという問題点があると思われる（柴谷（1978：232）では、「状態述語」のヲ格について、「一律に規定できない」とされている）。水谷（1964）、柴谷（1978）においては、感情形容詞がヲ格をとるという問題に深く立ち入ることはできないが、本章では、感情形容詞のヲ格の出現を具体的に説明するという点に問題意識がある。

一方、新屋（1995）においては、ヲ格をとるかどうかを説明する「他動性」の規定に問題を含むと思われる。新屋（1995）では、「主観的表現の語」と「主観客観の総合的表現の語」をそれぞれ A 類と B 類とした上で、感情形容詞における「感情主」と「対象」の関係の違いを指摘し（A 類は「一方的な感情」、B 類は「双方向の作用」）、B 類に比べて A 類の他動性が高いことは明白であるとしている⁸。その「他動性」の高さから、A 類はヲ格をとり得ると説明される。しかし、主観性と「他動性」は一般に対応しない（例えば、他動詞「殴る」は主観的とは言えない）のに両者を一意的に結び付けていること、ヲ格をとるかどうかを説明するための「他動性」においてヲ格の問題が切り離されていないこと（具体的には、B 類の「気の毒だ」より A 類の「好きだ」の「他動性」が高いことを示す一つの根拠として、「ガーヲ」構文をとるという特徴を挙げていること）などから、「他動性」の概念によってヲ格の出現を十分に説明しているとは言い難い。以上の先行研究に対し、以下では、語構成の観点から感情形容詞のヲ格の出現について論じる。

3. 感情形容詞の分類

感情形容詞は、感情形容詞と感情動詞の対応（形態・意味・統語的対応）

⁸A 類として「ほしい」「恋しい」「好きだ」「きらいだ」、B 類として「面白い」「楽しい」「つらい」「うれしい」「悲しい」「淋しい」「苦しい」「気の毒だ」が挙げられている。

に着目すると、大きく 4 種類に分けられる。

- A. 感情動詞から感情形容詞が派生したと考えられるもの（形容詞化型）
- B. 同一語根から感情形容詞および感情動詞が派生したと考えられるもの（同一語根型）
- C. 感情形容詞から感情動詞が派生したと考えられるもの（動詞化型）
- D. 感情形容詞と感情動詞が対応関係にないもの（非対応型）

形容詞化型は派生のタイプの違いによって、さらに 2 種類に分類する。

「活用語尾の部分が「しい」へ接続するため内部変化を起こしたと察せられる」（森岡 1987 : 19）ものを形容詞化型第 I 類、感情動詞の連用形に接尾辞が付くと言えるものを形容詞化型第 II 類と呼んで区別する。よって、感情形容詞は (7) のように五つの型 (7a①, 7a②, 7b, 7c, 7d) に整理できる⁹。現代語で用いられる感情形容詞は、『動詞・形容詞問題語用例集』（国立国語研究所資料集 7）における「語末からの逆びきによる動詞・形容詞」を参考にして選んだ（ただし、「複合語」「接頭語による派生語」は省く）¹⁰。

(7a, b, c) における矢印は、感情形容詞と感情動詞の対応における派生関係を模式的に示している。「←」は感情動詞から感情形容詞への派生、「→」は感情形容詞から感情動詞への派生、「↕」は同一語根から感情形容詞および感情動詞への派生を表している。(7d) においては、形態的特徴を共有する対を持つものを分けて、その対を丸括弧に入れて示している（この場合も、対となるものが感情動詞でなく、意味的特徴を共有しないため非対応型）。

(7) a. 形容詞化型

- ①形容詞化型第 I 類（「しい」が付き、感情動詞から感情形容詞が派生したと言えるもの）¹¹

⁹ (7a, b, c) における感情形容詞と感情動詞の対は、語彙的意味において類同性があると言えるものである。それぞれが多義である場合は、ジャパナレッジ版『日本国語大辞典』を参考にして、最低一つの意味に類同性があると認められるものを対として挙げている。

¹⁰ 「語末からの逆びきによる動詞・形容詞」を用いたのは、「現代語の動詞や形容詞を、たがいに参照するのに助けとすること」が主要な目的とされており、語構成の観点からの分析において有用であると考えたからである。

¹¹ (7a①) では「しい」の付加に伴って変化を起こしたと言える部分に下線を引いてある。なお、山崎 (1984) は、古典語におけるシク活用形容詞の中で動詞から派生したと考えられるものは、動詞の終止形に「アシ」が付いて成立したとしている（川本 1977 も参照）。この「アシ説」によれば、現代語における (7a①) の感情形容詞は感情動詞に「アシ」が付いたものと思えることもできるが、本章では、森岡 (1987) が述べるように、「しい」へ接続するための活用

あさましい (←あさむ (浅)), いたましい (←いたむ (痛)), いとわしい (←いとう), いまわしい (←いもう (忌)), いらだたしい (←いらだつ), うたがわしい (←うたがう), うとましい (←うとむ), うらめしい (←うらむ), うらやましい (←うらやむ), うれわしい (←うれう (うれえる)), おそろしい (←おそる (おそれる)), きづかわしい (←きづかう), くやしい (←くゆ (くいる)), このましい・このもしい (←このむ), したわしい (←したう), たのもしい (←たのむ (頼)), なげかわしい (←なげかう (嘆)), なつかしい (←なつく (懐)), なやましい (←なやむ), ねがわしい (←ねがう), ねたましい (←ねたむ (妬)), のぞましい (←のぞむ (望)), のろわしい (←のろう (呪)), はらだたしい (←はらだつ (腹立)), ほこらしい (←ほこる), やましい (←やむ (病)), よろこばしい (←よろこぶ), わずらわしい (←わずらう (煩))

②形容詞化型第Ⅱ類 (感情動詞の連用形に接尾辞¹²が付き, 感情動詞から感情形容詞が派生したと言えるもの)¹³

きらいだ (←きらう (嫌)), こいしい (←こう (恋)), じれったい (←じれる), すきだ (←すく (好)), ほしい (←ほる (欲)), わびしい (←わぶ (侘) (わびる))

b. 同一語根型 (それぞれ接尾辞が付き, 同一語根から感情形容詞および感情動詞が派生したと言えるもの)

いたわしい (←いたわる), いぶかしい (←いぶかる)

語尾の「内部変化」と捉え, 「アシ」の付加を想定しない。

¹² 形容動詞の語尾「だ」を接尾辞として扱うことを注意しておく。形容動詞は一語と認める説と名詞に断定の助動詞「だ」が付いたものと見る説が対立し, 単語認定上の問題があるが,

「一語であれ二語であれ, いわゆる形容動詞が, 形容詞文述定述語の一つとして, 形容詞の述語と名詞のその連続を仲介するものである」(川端 1976: 198)とする見方に従い, 分析上形容動詞を一語と認め, 形容詞と同列に扱う。このことから, 「だ」を語構成要素として取り出し, 「しい」「たい」と一括して接尾辞として扱う。「しい」を接尾辞として取り出すのは, 「疊語的な複合語基と結合するものか, 動詞と有縁的な関係をもつもの」の場合に限り「い」ではなく「しい」と分析されるからである (野村 1977: 262)。

¹³ (7a②)の「こいしい」「わびしい」は「しい」に接する「こひ (こい)」「わび」を未然形に等しい形態であると見ることできるが, 上代語における形容詞の語構成 (蜂矢 2012) から跡付けられるので連用形とする。蜂矢 (2012: 23)は「ワビシ」「サビシ」「コヒシ」「オダヒシ」を「動詞連用形+シの派生形容詞」と分類している。なお, 現代語の「さびしい」は感情動詞との対応がないので, (7d)に分類される。

- c. 動詞化型（「む」が付き、感情形容詞から感情動詞が派生したと言えるもの）

あやしい（→あやしむ）、あわれだ（→あわれむ）、いとおいしい（→いとおしむ）、いとしい（→いとしむ）、いぶかしい（→いぶかしむ）、おいしい（→おしむ）、かなしい（→かなしむ）、くるしい（→くるしむ）、たのしい（→たのしむ）、なつかしい（→なつかしむ）、にくい（→にくむ）

- d. 非対応型

ありがたい、あわただしい、いかがわしい、いたいたしい、いまいましい、いやだ、うっとうしい、うるさい、うれしい、おかしい、おぞましい、おっかない、おもしろい、おもはゆい、かたじけない、かったるい、かわいい、くすぐったい、けむたい、こわい、せつない、せわしい、つらい、にくらしい、ばかばかしい、はがゆい、ばからしい、はずかしい、ふがいない、まだるっこい、まちどおしい、まぶしい／けがらわしい（けがらう（汚・穢））、さびしい（さびる（寂）（さびれる））、しあわせだ（しあわす（為合））、もどかしい（もどく（擬））、ゆかしい（ゆく（行））

（7a②）における「ほしい」は、外形上、感情動詞の連用形に接尾辞が付くと言えるものではないために、網掛けをして示している。「ほしい」においては、派生関係にある感情動詞として「ほる（欲）」が想定できるが¹⁴、実際の形態からは（7b）に入れるべきであったかもしれない¹⁵。しかし、ヲ格をとる場合に仮定される統語構造の観点から、（7a②）に位置付けることができると考えられる。田村（1971）は、「対象を表す成分に「が」を伴わしめる語」である「ほしい」について、「を」を伴う場合は、「意味《所有する、手に入れる》」だけがあって形のない他動詞の希望形「○-たい」だと考えれば説明がつく」（田村（1971：32））としている。その統語構造は、（8a）

¹⁴ 『角川古語大辞典』の「ほる [欲]」の項目では、「「ほし」の動詞形」とされている。

¹⁵ 『時代別国語大辞典上代編』の「ほし [欲]」と「ほる [欲]」の項目では、「同根」とされている。川端（1979：382）では、「ほし（欲）」の語幹が「動詞の語根としてある場合」のうちに整理されており、「そこ（注：シク活用形容詞語幹）に認められる形状言の、最弱形式的な動詞化として」、「ほる（欲）」があるとされている。林（2004）では、「語幹の用法のうち接尾辞を伴って動詞として用いられるもの」として、「ホル」が挙げられている。

のような「...を...たい」の統語構造と平行的に捉えられ、(8b)のように仮定されている。本章では、「-たい」との平行性に関する指摘（後述）は受け入れるが、感情形容詞のヲ格を形態的に対応する感情動詞から捉えたいこと、形態的な対応を派生という観点で押さえていること、などの理由で(8b)のような「○-たい=ほしい」という仮定には従わない。

- (8) a. [水を—飲み]たい
b. [水を—○]たい
c. [水を—ほり]しい

「ほしい」と「ほる（欲）」が形態的に対応するという想定のもとで「-たい」との平行性を考慮に入れると、ヲ格をとる場合の「ほしい」の統語構造は(8c)のように捉えられる。この統語構造のあり方から、「ほしい」を「感情動詞の連用形+しい」の型を持つ「ほり-しい」として分析し、(7a②)に位置付ける¹⁶。(7)を見ると、ヲ格を一般にとるとされる感情形容詞（「きらいだ」「こいしい」「すきだ」「ほしい」）が(7a②)に集中していることから、(7a②)の型（感情動詞の連用形+接尾辞）を持つことがヲ格をとることに関係していると考えられる。

4. 感情形容詞のヲ格の出現条件

この節では、前節までの考察をもとに、ヲ格をとる感情形容詞の出現条件を示す。(7)の語構成による感情形容詞の分類は、ヲ格を一般にとる感情形容詞が(7a②)の形容詞化型第Ⅱ類に偏るということを示していた。形容詞化型第Ⅱ類は、派生の方向（感情動詞→感情形容詞）と派生のタイプ（「感情動詞の連用形+接尾辞」）の観点から分けられることから、感情形容詞のヲ格の出現条件として、次の(9a, b)が指摘できる。

- (9) a. 感情動詞から感情形容詞が派生していること（出現条件Ⅰ）

¹⁶ 「ほしい」において「ほりしい」の形態で具現化していないことについては、未解決の問題である。そのため、「ほしい←ほる」の想定は確証を伴わないので、「きらいだ」「こいしい」「すきだ」の場合と同様の分析をするにとどめたい。

b. 感情動詞の連用形に接尾辞が下接していること（出現条件Ⅱ）

一方、(9a, b) の二つの条件を満たしていても（形容詞化型第Ⅱ類であっても）、「じれったい」「わびしい」はヲ格を一般にとらない。これについてはどのように捉えるべきであろうか。まず、「わびしい」について見る。

(7a②) の形容詞化型第Ⅱ類は、「対象」の意味役割を持つ名詞句としてどのようなものをとるかという観点から見ると、2種類に分類が可能である。

- (10) a. きらいだ、こいしい、じれったい、すきだ、ほしい
b. わびしい

(10a) の感情形容詞は、「対象」の意味役割を持つ名詞句として、(11a) の「貴方」「貴方の唇」のような「具体的」「個別的」なモノをとり得る。これに対し、(10b) の「わびしい」は、「対象」の意味役割を持つ名詞句として、(11b) のようにモノはとれず、(11c) のような「秋風」「一人暮らし」「世の中」というコトをとる¹⁷。(11c) における「秋風」「一人暮らし」「世の中」は、表面的には名詞であるが、内容的には「秋風が吹くこと」「一人で暮らすこと」「世の中で起こる様々なこと」というような意味を持っており、モノではなくコトと把握される名詞であると言える¹⁸。

- (11) a. 私は {貴方／貴方の唇} が {きらいだ／こいしい／じれったい／すきだ／ほしい}
b. *私は {貴方／貴方の唇} がわびしい
c. 私は {秋風／一人暮らし／世の中} がわびしい

¹⁷モノとコトの弁別については、廣松（1975）、寺村（1981）などを参照。寺村（1981）は、「もの」＝“名詞類”で表わされる与件」「こと」＝“文章態”で表わされる事態」というような、廣松（1975）による捉え方を掘り下げ、モノは「個別的」「具体的」「感覚（五感）ないしそれに準ずる心理作用によって把握される対象」、コトは「命題で表わされるような内容や、動詞、形容詞で表わさる動作、作用、変化、状態、属性などを一般的に概念として表わしたものの」「思考によって把握される対象、発話や知識の内容」としている。

¹⁸名詞句がコトを表すという点に関しては、木村（1982）を参照。木村（1982：22-23）は芭蕉の俳句「古池や蛙飛び込む水の音」を例として用いて、「ものについての情報を目的とはせず、ことの世界を鮮明に表現しようとしているという点」を説明している。

よって、感情形容詞において、「対象」の意味役割を持つ名詞句としてモノをとり得ることがヲ格の出現に関わっていると考えられる。このことを対応する感情動詞の側から捉え直すと、感情形容詞のヲ格の出現条件として、次の(12)が指摘できる¹⁹。

- (12) 対応する感情動詞が「対象」の意味役割を持つ名詞句としてモノをとり得ること（出現条件Ⅲ）

出現条件Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを満たしていてもヲ格が出現しないのが、「じれったい」である。(10a)における「じれったい」は、対応する感情動詞のとする格の観点から他のものと区別できる（対応する感情動詞を丸括弧に入れて示す）。

- (13) a. きらいだ（きらう）、こいしい（こう）、すきだ（すく）、ほしい（ほる）
b. じれったい（じれる）

(13a)の感情形容詞は対応する感情動詞がヲ格をとるのに対し（～ヲきらう／こう／すく／ほる）、(13b)の「じれったい」は対応する感情動詞がニ格をとる（～ニじれる）。このことから、感情形容詞のヲ格の出現条件として、次の(14)が指摘できる。

- (14) 対応する感情動詞がヲ格をとること（出現条件Ⅳ）

5. 感情形容詞のヲ格の出現条件の成立についての考察

前節では、感情形容詞のヲ格に四つの出現条件が成立することを示した。

¹⁹ 「わびしい」がヲ格をとらないのは、対応する「わぶ」が「自動詞」と認められることから（『小学館古語大辞典』）、「わぶ」の自動性の関与も考えられることを注意しておく。ただし、「世をわぶる涙ながれてはやくともあまの川にはさやはなるべき（大和物語、百三、天の川）」（新編日本古典文学全集 12：328）のような他動詞的な例もあるため、「わぶ」の自動性および現代語における「一人暮らしを侘びる」のような他動詞的な用法と「わびしい」との関係については、歴史的観点からのさらなる考察が必要である。

では、なぜこのような出現条件が成立するのであろうか。ヲ格をとる場合とガ格をとる場合の統語構造を、「-たい」の持つ統語構造と平行的に考えることで説明を試みる。「-たい」は、ヲ格をとる場合とガ格をとる場合で、それぞれ補文構造と単文構造という二つの異なった統語構造を持つとされている（田村 1969, 久野 1973 など）。さらに田村（1971）では、「ほしい」の持つ統語構造を「-たい」の場合と平行的に捉えて、ヲ格をとる場合は補文構造、ガ格をとる場合は単文構造を持つとしている。本章では、(7a②)におけるヲ格を一般にとる感情形容詞全体に田村（1971）の考え方を適用する。ヲ格を一般にとる感情形容詞は、「-たい」の持つ統語構造と平行的に捉えると、ヲ格をとるかガ格をとるかによって、それぞれ次の(15a, b)のような統語構造を持つと考えられる。

- (15) a. [[あなたをきらい] だ] / [[あなたをこい] しい]
 b. [あなたが きらいだ] / [あなたが こいしい]

ヲ格をとる場合は(15a)のような補文構造、ガ格をとる場合は(15b)のような単文構造が仮定できる。この統語構造からの帰結として、(15b)においては、下線部が語として文の組み立てに關与するのに対し、(15a)においては、語が想定される下線部の前部要素が動詞句に入れ替わる形で文の組み立てに關与すると考えることができる。(15a)の全体の範疇は形容詞句であると分析できる。以上のように捉えると、四つの出現条件の成立について、具体的な問いを立てることができる。すなわち、これらは、感情形容詞の前部要素を動詞句に入れ替え、統語構造上、語（形容詞）から句（形容詞句）として組み立てるように働いているのではないかと考えられる。その場合、どのような理由が考えられるであろうか。全ての出現条件を今一度示そう。

- (16) a. 感情動詞から感情形容詞が派生していること（出現条件Ⅰ）
 b. 感情動詞の連用形に接尾辞が下接していること（出現条件Ⅱ）
 c. 対応する感情動詞が「対象」の意味役割を持つ名詞句としてモノをとり得ること（出現条件Ⅲ）
 d. 対応する感情動詞がヲ格をとること（出現条件Ⅳ）

四つの出現条件は、語から句として組み立てられる背景に、感情形容詞における感情動詞の働きがあることを示していると考えられる。感情動詞の働きに着目し、以下でそれぞれを検討する。まず、出現条件Ⅰと出現条件Ⅱは感情形容詞における感情動詞の動詞性を残すように働くと考えられる。出現条件Ⅰは、感情形容詞において感情動詞が取り込まれていることを意味する。さらに、動詞の活用形のうち連用形が「動作の進行に沿って捕えた形」として代表形と認められる（三上 1953）ということから、出現条件Ⅱによって連用形であることで感情形容詞の内部に動詞性が残されるということが考えられる。この点において、感情動詞からの派生形であっても連用形ではない（7a①）の感情形容詞には動詞性が残されていないと言える。

次に、出現条件Ⅲは感情形容詞の前部要素、すなわち感情動詞の連用形を動詞句に入れ替えるように働くと考えられる。名詞句がモノであることは、「他動性（Transitivity）」と結び付けることができる。Hopper & Thompson（1980）は他動性を決定する要因として十の項目（Participants, Kineses, Aspect, Punctuality, Volitionality, Affirmation, Mode, Agency, Affectedness of O, Individuation of O）を示しているが、このうち「Individuation of O」は「対象（Object）」が個別化、特定化されている方が高い他動性を示すとされるものである。この項目に出現条件Ⅲを関連付けると、出現条件Ⅲは他動性を高くするものと捉えられる。よって、出現条件Ⅰ・Ⅱで動詞性が残される環境の下で、出現条件Ⅲによって感情形容詞の前部要素の他動性が高くなるために、動詞句に入れ替わると解釈できる。

最後に、出現条件Ⅳは格の種類を指定する働きがあるのではないかと思われる。出現条件Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおける感情動詞の働きによって、感情形容詞の前部要素が動詞句に入れ替わると、感情動詞のとり格が具現化すると考えられる。例えば、ヲ格以外の格の具現化の可能性も指摘できないわけではない。（7a②）の「じれったい」は出現条件Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを満たし、対応する感情動詞（「じれる」）が二格をとるため、二格の具現化が予測される。

- (17) a. 4連勝後の連敗に、「うまくいっていたのに、四月に逆戻りや」
となかなか乗り切れないチームにじれったいそうだった。

（『朝日』1998年6月25日、朝刊）

- b. 大阪・梅田の阪神百貨店電気製品売り場でも買い物客らが証人喚問のテレビ中継を見つめたが、やりとりにじれったそう。

〔読売〕1991年8月29日、大阪夕刊

(17a,b) は、形容詞語幹にいわゆる様態の「そう(だ)」が付加したものであるが、「そう(だ)」は句全体に付加し(時枝 1950b:154)、格の交替を伴わないため、「じれったい」が二格をとる用例として見るができる。ただし、実例では「～にじれったそう(だ)」の形式でしか見受けられず、「～にじれったい」の形式は確認できていない。「じれったい」のとる二格と対応する「じれる」のとる二格との相関は明らかとは言えないため、なお検証が必要である²⁰。

6. おわりに

本章では、現代語におけるヲ格を一般にとる感情形容詞について語構成に着目して考察し、四つの出現条件を明らかにした。さらに出現条件が成立する理由について、ヲ格をとる場合とガ格をとる場合の統語構造(補文構造、単文構造)の観点から説明した。本章で扱った問題はごく少数の語についての論考であるが、以下の三つの課題に取り組むことで、より一般的な言語現象の分析につなげていきたい。

まず、ヲ格をとるということの意味について動詞を含めた格体制全体でどのように捉えるのかが第一の課題となるだろう。出現条件Ⅱにおいては、感情動詞から派生される際に連用形であることが必要であるという事実を指摘した。しかし、なぜ連用形である必要があるのかについては、なお検討しなければならない第二の課題である。感情形容詞のヲ格については、語として想定されるものが、統語構造上、句(形容詞句)として組み立てられた場合に出現すると考えられることを述べた。一方、ヲ格をとる場合は、感情形容詞の前部要素が句(動詞句)として分析できることから、感情形容詞がヲ格をとる現象について、「形態素あるいは語+接辞」とあるべき語の内部に句

²⁰ 「～が興味深い」に対する「～に興味深そう」、「～が腹立たしい」に対する「～に腹立たしそう」なども容認可能だという指摘もあり、二格の具現化は、「そう(だ)」が付加することによって生じる問題かもしれない。この現象に関しては、今後詳細に検討したい。

が包み込まれる現象，すなわち「句の包摂」という観点から捉えることも可能であるように思われる。影山（1993）は「句の包摂」について、「句への拡張」と「句接辞（phrasal affix）」に分け，前者は「元来は形態素ないし語を対象とする語彙的な接辞要素が，統語的な句にまで拡張する場合」，後者は「もともと句ないし節を対象とする句接辞」の場合としている²¹。それぞれの前部要素を見ると，前者は名詞句，後者は動詞句を包摂する性質を持つと言える。この観点からは感情形容詞がヲ格をとる場合は後者と共通点を持つように思われるが，その詳細については第三の課題としたい。

また，本章においては，出現条件Ⅲをモノの観点から捉えたが，これは，前章で考察した，ガ格「誘因／対象」型感情動詞文のガ格の出現条件のうちの一つ（「誘因」ないし「対象」を表す名詞句としてコトをとること）と関連付けることができる。すなわち，モノとコトを両極とするスケール上で感情動詞と感情形容詞を捉えることができると考えられる。この観点から見た感情動詞と感情形容詞の相互関係については本研究のまとめで示したい。

²¹ 影山（1993：326-330）は、「句への拡張」の例として，「[テレビのスペシャル番組] 風（週刊誌）」「[夏目漱石と正岡子規] 展（広告）」「[広い庭] 付き一戸建て住宅（広告）」などを挙げ，「句接辞」の例として（2種に大別される），「[アルバイトをし]ながら大学に通う」「[そう思い]つつ」（以上「接続詞的なもの」），「[いまにも雨が降り]そう（だ）」「[なにか言いた]げ（だ）」（以上「名詞的なもの」）などを挙げている。

第4章

現代語のサニ構文と語形成

1. はじめに

現代語には、(1)のように原因・理由を表す「～サニ」を用いた文がある。

- (1) a. 祖父は、孫の喜ぶ顔が／を見たさに豪華なおもちゃを買った
b. 少年は、遊興費欲しさにひったくりを繰り返した

「～サニ」は「形容詞語幹+サ」に「ニ」が接続したものであるが、「～サニ」において、(1a)では格助詞が現れているのに対し、(1b)では格助詞が現れていない。本章では、(1a)のように格助詞が現れる「～サニ」を用いた原因理由文を「サニ構文」と呼ぶ¹。

サニ構文は中世室町期において成立し(湯澤 1929)²、その歴史的展開は詳細に記述されてきたが(柳田 1977, 青木 2003, 竹内 2005)、現代語に焦点を当てた研究はされていない。現代語に見られるサニ構文については、これまでの歴史的な研究を踏まえて考察する余地があるのではないと思われる。本章では、現代語におけるサニ構文の出現頻度が非常に低いことに着目し、その出現環境とサニ構文が成立する理由について考察する。具体的には、新聞を主としたデータベースを用いた調査によってサニ構文のデータを提示すること(4節)、データ分析によりサニ構文の出現環境を明らかにすること

¹ 「～サニ」は「嫌だ」のような形容動詞によって構成される場合もあるが(例:「教育研究発表会への出席がいやさに、自分の勤める小学校に三回にわたって放火」『読売』1987年12月10日、東京朝刊)、得られる用例が少ないため考察の対象としない。

² 湯澤(1929: 271)は、「研ト倪ト音カチカサニマキレタルソ(史記抄)」のような例を挙げ、「サニ」に原因・理由の意味が生じることを指摘している。

(5 節), 語形成における接尾辞「サ」の機能からサニ構文に出現環境がある理由を説明すること (6 節), の 3 点を主な目標とする。

まず次節では先行研究を概観し, 続く 3 節ではデータ収集のために行った調査の方法について述べる。

2. 現代語のサニ構文

ここでは, 現代語のサニ構文について多く言及しているものとして, 影山 (1993) と青木 (2003) を取り上げる。影山 (1993) は, (2) のような例を挙げ, (2a) における「酒代がほしさ」が「複合化」することで (2b) における「酒代欲しさ」が成立するとしている。

- (2) a. 男は, 酒代がほしさに強盗をはたらいた
b. 男は, 酒代欲しさに強盗をはたらいた

(2a) のようなサニ構文については, 「現在では幾分古めかしい響きがあるが, それでも決して特定の語彙に固定されてはいない」(影山 1993 : 245) と述べている。これに対し青木 (2003 : 86) は, サニ構文を構成することのできる用言が「欲しい」「-たい」に限られるとし, 「かなり固定化された表現なのではないか」と述べている³。また, 青木 (2003) はサニ構文の歴史的展開を捉え, 現代語においては (2b) のような例が普通であり, サニ構文は消滅したとしている。影山 (1993) の言及は文法性によるものであり, 歴史的観点から実例によって検討している青木 (2003) とは視点が異なる。文法上許されるサニ構文は, 実例では確かに青木 (2003) が述べるように普通に現れるものではない。しかしその出現が確認されるため, 消滅したとする青木 (2003) の説明には, 正確さを欠く部分があると言わざるを得ない。本章では, 青木 (2003) の説明を再検討するという意味も含め,

³ 青木 (2003) は, 「～サニ」に「句の包摂」が生じているものを「「～サニ」構文」と呼んでいる。「句の包摂」とは, 「[地に届き] そう」, 「[中世のフランス] 風」のように, 「語の内部に句が包み込まれる」という現象のことを指す (時枝 1950, 影山 1993 などを参照)。なお, 本章のサニ構文は青木 (2003) の「「～サニ」構文」と指し示すところは同じになるが, 青木 (2003) のように「用言性の発揮」や「句への拡張」を想定しない。サニ構文における「句の包摂」については 7 節で議論する。

現代語における (2a) のようなサニ構文並びに (2b) のような文 (本章では議論の便宜上, 仮に「一語化構文」と呼ぶことにする) について調査する。なお, 一語化構文については 6 節で言及する。

3. 調査方法

現代語においてサニ構文並びに一語化構文を構成する用言はいわゆる「感情形容詞」であるが (影山 1993, 青木 2003), 実際にまとまってデータが得られるものは少ない。調査語とした用言は, データが多く (100 例以上) 得られるように考慮し, 「かわいい」「恋しい」「欲しい」「-たい」の 4 語を選んだ⁴。使用したデータベースは, 『朝日 DNA～聞蔵～』 (以下『朝日』), 『産経新聞ニュース検索サービス the Sankei Archives』 (以下『産経』), 『毎日 News パック』 (以下『毎日』), 『ヨミダス文書館』 (以下『読売』) である。データの範囲は, データベースそれぞれの収録開始時点から 2007 年 4 月 14 日までである。

4. 調査結果

表 1 に調査語とした用言とサニ構文・一語化構文との関係を示す。表 1 は, 調査語とした用言は, 基本的に一語化構文で使われることを示している。一語化構文は全ての調査語で多数を占めている。一方, サニ構文は「欲しい」「-たい」において出現している。一語化構文の出現性の高さという観点から, 「欲しい」は一語化率が非常に高いものとして, 「かわいい」「恋しい」と同列に扱う。よって, サニ構文を構成する用言は, 「-たい」にはほぼ限られていると言える。この結果から, サニ構文についての青木 (2003) の説明とは異なり, サニ構文は, 特に「-たい」を用いた場合では, 必ずしも消滅していないことが分かる。

⁴ 調査語となる 4 語の選択に当たっては, 便宜的に行った, 『新潮文庫の 100 冊』と『新潮文庫の絶版 100 冊』における調査の結果を参考にしている (調査語としたもの以外にサニ構文・一語化構文で使われていた用言は, 「いたいたい」「いとしい」「いやだ」「うるさい」「おかしい」「おいしい」「おそろしい」「くちおいしい」「こわい」「ない」「にくい」「にくらしい」「めずらしい」である)。時代とデータベースの性質が異なるため, 調査語としたもの以外にも, まとまってデータが得られるものが存在する可能性があることを注意しておく。

表 1 調査語とした用言とサニ構文・一語化構文

用言	かわいい	恋しい	欲しい	-たい
サニ構文	0	0	9	121
一語化構文	105	104	3565	503
合計	105	104	3574	624
一語化率(%)	100	100	99.7	80.6

4.1 「かわいい」「恋しい」「欲しい」が使われる場合

この節では、一語化構文の出現性が高い「かわいい」「恋しい」「欲しい」が使われる場合について見る。「かわいい」「恋しい」が使われると、全てが一語化構文であった。(3)に「かわいい」によるもの、(4)に「恋しい」によるものを挙げておく。

- (3) a. 一方、地方幹部の放漫ぶりや、地元企業かわいさに税金を減免するといった風潮は汚職以上に深刻だ。

(『産経』1993年3月18日、東京朝刊)

- b. 過保護な親が自分の子かわいさに、教師を威圧するような空気があった。

(『朝日』2007年4月2日、夕刊)

- (4) a. 静の持つ初音の鼓の革に、殺された両親の狐が張られている。親恋しさに人の形を借りたという設定だ。

(『朝日』1992年1月7日、週刊、アエラ)

- b. 『古事記』に、亡くなった妻恋しさに黄泉(よみ)の国へ追っていくという話がありますね。

(『毎日』1993年5月16日、東京朝刊)

「欲しい」が使われる場合は、(5)のような大多数(3574例中3565例)の一語化構文の用例に対し、(6)と(7a)のような少数(3574例中9例)のサニ構文の用例があった。サニ構文で出現した9例には、(6a)のようなガ格のもの(5例)、(6b)のようなヲ格のもの(3例)、(7a)のようなノ格のもの(1例)、がある。(7a)のノ格は、(7b)のようにガ格で言い換えることが可能であり、いわゆる「ガ・ノ交替」の例として捉えられる。

- (5) a. 親猫の1匹はえさほしさに足元にすり寄ってきて、赤い首輪を巻けるまでになつている。

(『朝日』2002年6月14日、朝刊)

- b. 昨年来、一袋百五十円で数枚のカードが入っている「遊戯王カード」にはまっている。強いカード欲しさに、掃除をしてお小遣いをためては買いに走っていた。

(『産経』2001年1月15日、東京朝刊)

- c. 人気ゲーム機「たまごっち」の購入代金欲しさに約四万円を脅し取ったとして、大阪府警少年課と福島署は五日までに、大阪市福島区内の中学二、三年の男子三人を恐喝容疑で逮捕した。

(『読売』1997年3月5日、大阪夕刊)

- (6) a. でも私はテストの直前だけ、単位やいい成績が欲しさにノートをとるので実力になってない。

(『朝日』2004年1月21日、朝刊、秋田2)

- b. また、ミミズが、玉虫色のセミの美しい帯を欲しさに、大事な自分の目玉と交換してしまう民話「セミとミミズ」などを朗読した。

(『朝日』2004年3月14日、朝刊、神奈川1)

- (7) a. 「シナはロシアを疑惑する。それによってわが国の極東発展に大いなる障害をまねくであろう。眼前の一片の土地のほしさに百年の国益をうしなってはならぬ」と、反対した。

(『産経』1999年5月15日、東京朝刊、司馬遼太郎「坂の上の雲」)

- b. 眼前の一片の土地がほしさに百年の国益をうしなってはならぬ

4.2 「-たい」が使われる場合

この節では、サニ構文が比較的多く現れる、「-たい」が使われる場合について詳しく見る。

4.2.1 サニ構文の格標示の種類と一語化構文の出現性

まず、サニ構文における格標示の種類の観点からデータを分析し、その結果を表2として示す。表2より、5種類にわたって格標示がされていることが分かる。それぞれの用例を(8)に挙げる。

表 2 「-たい」によるサニ構文の格標示と用例数

格標示	ガ格	ヲ格	ニ格	ト格	カラ格	合計
用例数	7	97	14	2	1	121

- (8) a. ガ格：そんな彼の語りが聞きたさに，営業に差し障るのを気にしながらも，自然に店に足が向いてゆく。
(『朝日』2002年11月13日，朝刊，香川2)
- b. ヲ格：マグワイアの怪力を見たさに前日より8000人多いファンが詰めかけた。
(『産経』1998年9月4日，東京朝刊)
- c. ニ格：愛する妻に会いたさに，シモンズは地獄の王へ魂を差し出し，やみの兵士スポンとして現世に舞い戻る。
(『毎日』1998年9月11日，大阪夕刊)
- d. ト格：天文学科にいた彼女と話したさに，星や宇宙物理の本を読みあさった。(『朝日』1989年4月4日，週刊，アエラ)
- e. カラ格：6年後，借金の返済と外尾被告からの暴力から逃れたさに，吉則君の殺害を受け入れたという。
(『朝日』2002年7月24日，朝刊，長崎1)

(8a) のガ格，(8b) のヲ格，(8c) のニ格は落とせるのに対し（「語り聞きたさに」，「怪力見たさに」，「妻会いたさに」，(13) の実例も参考），(8d) のト格，(8e) のカラ格は落とせない（「*彼女話したさに」，「*暴力逃れたさに」）。よって，以下の分析では，格標示が義務的である（＝サニ構文のみで出現する）ト格とカラ格の用例を除き，格標示が任意的であり一語化構文の出現にも関係するガ格，ヲ格，ニ格の用例を用いる⁵。

⁵ 影山（1993：246）では，「意味格」としてのニ格は落とせないことが指摘されているが（「親にほめられたさに」に対する「*親ほめられたさに」），実際のデータには，「意味格」と分析できる「目的地」のニ格が落ちているものもある（例：「入学後は，学校行きたさに毎朝早く着きすぎてしまうほどになる」『読売』2001年4月23日東京朝刊）。本章ではニ格の性質の違いについては立ち入らず，データ中のニ格は，格助詞を落とせるものとして，ガ格，ヲ格の用例と大きくまとめて分析する（データ中のニ格標示に関わる用言は「会う」「行く」「帰る」「来る」「乗る」であった）。ニ格の性質の違いについては，Sadakane & Koizumi（1995）が詳しく論じている。

4.2.2 名詞修飾とサニ構文の出現率

次に、サニ構文の現れやすさを調べるために、名詞修飾という観点から「-たい」が使われた例（ト格とカラ格の用例を除いたもの）を分析し、その結果を表3、表4として示す⁶。表3は、名詞修飾の有無がサニ構文の出現率（サニ構文には格標示があるので格標示率に等しい）に影響することを示している。名詞修飾があると、ない場合に比べて高い割合（3倍）でサニ構文が出現する。

表3 名詞修飾の有無と「-たい」によるサニ構文・一語化構文

名詞修飾	なし	あり	合計
サニ構文	30	69	99
一語化構文	313	186	499
合計	343	255	598
格標示率(%)	9	27	17

名詞修飾の有無とサニ構文の出現率との相関を確認するために、名詞修飾の階層（「一階層」「二階層以上」）に着目する。「一階層」の名詞修飾は（9a）、「二階層」の名詞修飾は（9b）のような統語構造を持っているものを言う⁷。

- (9) a. [修飾語 [名詞]] (例：モネの絵, 美しい絵)
 b. [修飾語 [修飾語 [名詞]]] (例：モネの美しい絵)

次の表4は名詞修飾の階層性が「-たい」によるサニ構文の出現率に影響することを示している。「二階層以上」の名詞修飾があると、「一階層」の名詞修飾よりサニ構文の出現率が高くなる（約3倍）。用例数を見ると、一語

⁶ここでは、「それ（を）聞きたさに」のような指示代名詞の用例はデータから外して分析する（指示代名詞の用例については4.2.3節で見る）。

⁷名詞修飾が二つ連なる場合でも、以下のような例は、（9b）のような「二階層」の構造ではなく（9a）のような「一階層」の構造として分析する。

- ・名詞修飾が並列されているもの（例：「うるさく大きな声」）
- ・名詞修飾が一つにまとまって主要部名詞にかかるもの（例：「かしこい子供の声」）
- ・主要部名詞が節によって修飾され、その節に「ガ・ノ交替」が見られるもの（例：「子供の喜ぶ声」）

化構文よりサニ構文の方が多い。表 3 と表 4 から、格標示率、つまりサニ構文の出現率は「名詞修飾なし」、「一階層」、「二階層以上」という順番で高くなる事が分かる。

表 4 名詞修飾の階層と「-たい」によるサニ構文・一語化構文

名詞修飾の階層	一階層	二階層以上
サニ構文	52	17
一語化構文	178	8
格標示率(%)	23	68

以下で用例を示す。サニ構文については、(10)に「名詞修飾なし」、(11)に「一階層」、(12)に「二階層以上」の用例を挙げる。一語化構文については、(13)に「名詞修飾なし」、(14)に「一階層」、(15)に「二階層以上」の用例を挙げる⁸。

- (10) 9月、絵を見たさに、ニューヨークのモダンアート美術館へ出かけた私。

(『朝日』1987年11月16日、朝刊)

- (11) a. まな弟子のウイニングランを見たさに、小出監督は、最後のポイントからゴールまで、車の使えない十一キロを走った。

(『産経』1997年8月10日、東京朝刊)

- b. 耳を圧する轟音を聞きたさに、どの子も広場に走ったものだ。

(『朝日』2004年4月26日、夕刊)

- c. 大坂の遊里新町で一、二を争う売れっ子の夕霧太夫は、恋しい伊左衛門に会いたさに、いそいそとやってくる。

(『朝日』1998年3月28日、朝刊、福岡)

- d. 本尊の阿弥陀如来像(重要文化財)の前で頭を垂れる参拝者に、

⁸ 合計 230 例の「一階層」の名詞修飾は、分析に当たって、「名詞」(115 例)、「動詞・節」(68 例)、「形容詞・形容動詞」(9 例)、「限定詞」(38 例)の 4 種類のタイプに区別した(例えば、11a, 14a が「名詞」、11b, 14b が「動詞・節」、11c, 14c が「形容詞・形容動詞」、11d, 14d が「限定詞」に区別される)。「二階層以上」は、これらのタイプのうち二つ以上が組み合わさったものである。なお、「一階層」の名詞修飾における 4 種類のタイプの間で格標示率に大きな差はなかった(「名詞」の場合は 23%、「動詞・節」の場合は 25%、「形容詞・形容動詞」の場合は 22%、「限定詞」の場合は 18%)。

住職の山中長悦さん（73）は柔和な顔で語りかける。この名調子を聞きたさに、二度、三度と同寺を訪れるお年寄りも多い。

（『毎日』1996年5月13日，地方版／奈良）

- (12) 胸にしまっている思い出の曲を聴きたさに差し出す手や声に力が入った。

（『毎日』2000年5月13日，中部夕刊）

- (13) 義経会いたさに、無理に無理を重ねてここまで来たものの、とうとう倒れてしまう。

（『朝日』2000年5月25日，朝刊，岩手2）

- (14) a. 9月上旬，シロは恋人の顔見たさに縄を外し，座間味島へ脱走したが，マリリンはその1週間前，事故で死んでいた。

（『朝日』1987年10月13日，朝刊）

- b. 古い車両がのどかな田園地帯を走る姿見たさに，カメラ片手にやってくる鉄道ファンが多かった。

（『読売』2001年9月28日，中部朝刊）

- c. 白いアスパラガス食べたさに，フランスへ飛ぶ。

（『朝日』1988年9月13日，朝刊）

- d. 雪のトンネル。今振り返ると，あのトンネル見たさに，除雪作業に励んでいたような気がする。

（『読売』2006年1月22日，東京朝刊）

- (15) これまで相撲を自分から進んで見たことも無かったが，高見盛関のあの気合見たさに，夕方になると落ち着かなかった。

（『朝日』2003年5月30日，朝刊，東京2）

4.2.3 指示代名詞と格標示率

表3と表4の結果は，名詞修飾の有無と格標示率に相関があることを示していた。ここでは，次の(16)のような指示代名詞のデータから，名詞修飾のデータと同様の格標示率との相関について示す。

- (16) a. 「舞台は見たことがなかったが，“王将”という作品にほれ込み，これがやりたさに新国劇に入った」とは，緒形に取材して聞いたことである。

(『産経』1993年10月27日, 東京朝刊)

- b. まん丸い目をした肇さんのはんなりとした大阪弁。大概は自慢話だが、それを聞きたさに通う客もいる。

(『読売』2000年9月6日, 大阪夕刊)

- c. ライブドアに入会した人だけが、堀江氏のインタビューをホームページ上で閲覧できるようにしており、それ見たさに入会する人が日に数万人もいる。

(『朝日』2005年3月7日, 週刊, アエラ)

表5に「-たい」が指示代名詞をとるデータにおけるサニ構文と一語化構文の用例数について示す。表5から、指示代名詞をとる場合は(16a,b)のようなサニ構文が多く(約8割)出現し、(16c)のような一語化構文はあまり出現しないことが分かる⁹。用例数は、一語化構文よりサニ構文の方がはるかに多い(約5倍)。

表5 指示代名詞をとるサニ構文・一語化構文と用例数

	サニ構文	一語化構文	格標示率(%)
用例数	19	4	83

5. サニ構文の出現環境

この節では、4節の調査結果をもとに、サニ構文の出現環境、すなわち格助詞が出現する環境を三つ示す。

5.1 出現環境 I

表1の結果は、サニ構文は、「～サニ」を構成する用言が「-たい」であると出現しやすく、「かわいい」「恋しい」「欲しい」であると出現しにくいとすることを示していた。この結果は「～サニ」を構成する用言の持つ統語構造の観点から解釈することができる。サニ構文が多く現れた「-たい」は、

⁹ 指示代名詞のデータ(23例)は「これ」(4例)、「それ」(19例)によるものであり、サニ構文のデータ(19例)の格標示の種類はガ格(2例)、ヲ格(17例)である。

(17a) のような補文構造と (17b) のような単文構造という二つの異なった統語構造を持つとされている (田村 1969, 久野 1973 など)。

- (17) a. [[映画を見][たい]]
b. [映画が[見たい]]
c. [娘が[かわいい]]/[故郷が[恋しい]]/[金が[欲しい]]

(17c) のような単文構造を持つ「かわいい」「恋しい」「欲しい」においてサニ構文がほとんど見られないということから, (17a) のような補文構造を持つ「-たい」においてサニ構文が多く出現すると考えられる。したがって, 同様に補文構造を持つ「-てほしい」においても, (18a) のようなサニ構文が出現しやすく, (18b) のような一語化構文は出現しにくいと言える (収集したデータにおいて「-てほしい」が使われた 3 例のうち 2 例がサニ構文で出現)。

- (18) a. 今回の事件のあった豊中市の府道大阪池田線の上津島交差点付近のほか, 岸和田市の国道 26 号, 高槻市の国道 171 号, 北区のナビオ阪急付近などにそうした期待族が多く, 暴走を見てほしさに, 近隣県などからも暴走族が集まる傾向にあるという。

(『毎日』1995年6月19日, 地方版/大阪)

- b. また, シンナーやめてほしさに, 親が子どもの職探しをしたり, 物を買って与えるのは論外とされている。

(『読売』2002年7月8日, 東京朝刊)

以上のような統語構造の共通性から, サニ構文が比較的出現しやすい環境として, 「～サニ」を構成する用言が補文構造を持つ場合 (出現環境 I) が指摘できる¹⁰。

¹⁰ 「-難しい」「-易い」は「-たい」と同様に補文構造を持つとされるが (井上 1976 : 137-150 など), 実例の確認ができなかったため言及しない。

5.2 出現環境Ⅱ

表 3 と表 4 の結果は、名詞修飾があれば「-たい」によるサニ構文が出現しやすくなることを示していた。このことから、サニ構文は補文内の動詞のとり名詞句に名詞修飾があれば出現しやすいと考えられる。

この出現環境は、単文構造を持つ形容詞によるサニ構文にも関係していると言える。単文構造を持つと分析できる、「欲しい」によるサニ構文の 9 例（例：「子供が欲しさに連れ出した」『産経』1993 年 6 月 5 日，大阪夕刊）と「-たい」（ガ格をとるもの）によるサニ構文の 7 例（例：「子どもの喜ぶ顔が見たさについ買いすぎたり」『読売』2002 年 11 月 7 日，東京朝刊）を合計した 16 例のうち、指示代名詞をとる用例を除いた 13 例を見ると、名詞修飾がある場合の用例が 8 例（62%）と多くを占めている¹¹。以上のことから、サニ構文が比較的出現しやすい環境として、「～サニ」を構成する用言がとり名詞句に名詞修飾がある場合（出現環境Ⅱ）が指摘できる¹²。なお、単文構造を持つ「かわいい」「恋しい」が使われた場合においては、名詞修飾がある用例が少なく（「かわいい」によるものは 105 例中 9 例、「恋しい」によるものは 104 例中 13 例）、この環境がサニ構文の出現につながっていないと考えられる。

5.3 出現環境Ⅲ

表 5 の結果は、指示代名詞をとれば「-たい」によるサニ構文が出現しやすくなるということを示していた。このことから、サニ構文は補文内の動詞のとり名詞句が指示代名詞であれば出現しやすいと考えられる。この出現環境も、出現環境Ⅱの場合と同様に、単文構造を持つ形容詞によるサニ構文に関係していると言えるのであろうか。単文構造を持つ「かわいい」「恋しい」

¹¹ 全体の 13 例の内訳は、「欲しい」によるものが 8 例、ガ格をとる「-たい」によるものが 5 例であり、名詞修飾がある 8 例の内訳は、「欲しい」によるものが 4 例、ガ格をとる「-たい」によるものが 4 例である。

¹² 単文構造を持つ形容詞によるサニ構文において、名詞修飾がある場合の用例が多いという結果には、元のデータの特徴が反映していないことを注意しておく。「欲しい」と「-たい」のデータにおいては、名詞修飾がある用例は 4168 例中 1761 例（42%）を占めるに過ぎない（指示代名詞をとる用例は除いて集計）。よって、名詞修飾があることがサニ構文の多さにつながっていると考えられる。全体の 4168 例の内訳は、「欲しい」によるものが 3567 例、「-たい」によるものが 601 例である。名詞修飾がある 1761 例の内訳は、「欲しい」によるものが 1503 例、「-たい」によるものが 258 例である。

「欲しい」が使われた場合においては、「欲しい」によるものみに 7 例の指示代名詞をとる用例がある（指示代名詞の用例 2 例の「これ」と 5 例の「それ」によるもの）。その 7 例のうちサニ構文の用例は 1 例のみである（「それが欲しさに女心が熱くなる」『毎日』1997年9月21日，東京朝刊）。このことから，単文構造の場合，名詞句が指示代名詞であることはサニ構文の出現に大きく影響しないと考えられる。以上のことから，サニ構文が比較的出現しやすい環境として，補文内の動詞のとる名詞句が指示代名詞である場合（出現環境Ⅲ）が指摘できる。

6. サニ構文の出現環境の成立についての考察

前節では，サニ構文に三つの出現環境があることを示した。では，なぜこのような出現環境がサニ構文にあるのであろうか。サニ構文に用いられる接尾辞「サ」の機能に着目し，一語化していくプロセスを想定することによって説明を試みる。

現代語において，サニ構文の「～サニ」は原因・理由を表しているが，「サ」は形容詞・形容動詞の語幹に付いて一語の名詞をつくる機能を持つ名詞化接尾辞と分析され，「～サ（＝名詞）＋ニ」と捉えられる。接尾辞「サ」の機能からすると，格助詞を伴うサニ構文と伴わない一語化構文とでは，一語化構文を基本形と言うことができる（調査語とした用言が一語化構文で基本的に使われるという表 1 の結果は接尾辞「サ」の機能によると考えられる）。接尾辞「サ」による名詞の作られ方に関しては，影山（1993）の分析に従い，以下のような語形成を仮定する。ここでは助詞「ニ」の付加は問題にしない。影山（1993）によると，例えば「金欲しさ」の派生においては，まず（19a）のように接尾辞「サ」が格助詞を伴った構造（「金が欲し」）に付き，次にそれが「複合化」することで（19b）のような語（「金欲しさ」）が形成されると捉えられる。

- (19) a. [金が欲し][さ]
b. [金欲しさ]

以上のような一語化のプロセスを想定すると，三つの出現環境がサニ構文

に与える影響について具体的な問いをたてることができる。すなわち、それぞれの出現環境が接尾辞「サ」の機能（一語化）を妨げる働きをするのではないか、という問いである。三つの出現環境によって、一語化するという接尾辞「サ」の機能が妨げられるのであれば、どのような理由が考えられるであろうか。

まず、出現環境Ⅰと出現環境Ⅱについて、両者の共通点によってまとめて考察する。出現環境Ⅰは「「～サニ」を構成する用言が補文構造を持つ場合」、出現環境Ⅱは「「～サニ」を構成する用言がとる名詞句に名詞修飾がある場合」であった。共通点を捉えるため、出現環境Ⅰと出現環境Ⅱが整う場合を(20)で見る（ここでは「～サニ」全体の構造は表示せずに「～サニ」を構成する用言による構造のみを表示する）。(20a)のような単文構造の場合は、二つの要素（「金」「欲しい」）が結びついてできた一階層で「～サニ」が構成されている。(20b)のような補文構造の場合は、二つの要素（「映画」「見る」）が結びついてできたものにさらに別の要素（「たい」）が結びついてできた二階層で「～サニ」が構成されている。(20c)のような補文構造かつ名詞修飾がある場合は、二つの要素（「ディカプリオ」「映画」）が結びついてできた名詞句と別の要素（「見る」）が結びついたものに、さらに別の要素（「たい」）が結びついてできた三階層で「～サニ」が構成されている。

- (20) a. [金が欲し]さに
b. [[映画を見][た]]さに
c. [[[ディカプリオの映画を][見]][た]]さに

したがって、出現環境Ⅰと出現環境Ⅱには統語構造の複雑性（＝多階層性）において共通点があると言える。このことから両者について、サニ構文は「～サニ」における「～サ」の内部構造が複雑になると出現しやすいと捉え直すことができ、「～サニ」における「～サ」の内部構造が複雑になることで一語化が妨げられると考えられる。

次に、出現環境Ⅲは、「補文内の動詞のとる名詞句が指示代名詞である場合」であった。この環境に重要な役割を果たしている指示代名詞には「ダイ

クシス用法」と「照応用法」がある¹³。指示代名詞が後者の用法で用いられる時は、一語化において指示代名詞と文中の名詞句とが結ぶ照応関係に問題が生じる。語はその一部分だけで文中の照応に関係することに制約がある（Postal 1969）からである（影山 1993 の用語に従い、「語彙照応の制約」と呼ぶ）。（21a）のようなサニ構文の場合は、「これを見たさ」は一語化されていないことにより、指示代名詞「これ」は「東証立会場での威勢の良い三本締め」と問題なく照応関係を結ぶことができると考えられる。これに対し（21b）のような一語化構文の場合、指示代名詞「これ」と「牛のスジ肉」の照応関係を見ると、照応が語（「これ食べたさ」）の内部に及んでいる。つまり、サニ構文が指示代名詞をとる場合に一語化するということは、語彙照応の制約を破る状況を生み出すということの意味するのである。この制約を背景として、出現環境Ⅲは接尾辞「サ」の機能（一語化）を妨げるように働くので、サニ構文が多くなると考えられる¹⁴。

- (21) a. 大納会は、仕事始めの大発会のような華やかさはないものの、東証立会場での威勢の良い三本締めは、東京の年の瀬風景の一つで、これを見たさに、証券取引所を訪れる人も多い。

（『読売』1992年12月27日，東京朝刊）

- b. よく味のしみたジャガイモ，クジラの脂身，全部おいしかったけど，圧巻は牛のスジ肉。徹底的に煮込んであって，かむほどに煮汁の甘みが広がって。ほっぺたが落ちるってあんな感じかなあ。これ食べたさに，祖母の家にもおふろはあるのにわざわざ銭湯に行ってたほど。

（『読売』1990年3月2日，東京夕刊）

以上のことから、三つの出現環境がサニ構文の出現に影響を与える背景には、統語構造の複雑性（出現環境Ⅰと出現環境Ⅱにおいて）と語彙照応の制約（出現環境Ⅲにおいて）の2種類の関与があるとまとめられる。

¹³ 「ダイクシス用法」「照応用法」については、田中（1981）に従った。

¹⁴ 語の内部に指示代名詞が現れる例外的な表現として、影山（1993：11）は、「この電車はここ止まりです」を挙げている。また、南（1993：144）では「無理していえばいえそうな気もするといった程度」のものとして「そちら行き」が挙げられている。

7. サニ構文の「～サ」と「句の包摂」

前節の考察により，サニ構文と一語化構文の「～サ」について，接尾辞「サ」によって一語化したものが一語化構文の「～サ」であり，一語化が妨げられたものがサニ構文の「～サ」であると捉えられるようになった。では，サニ構文の「～サ」は，具体的にどのようなものとして分析できるであろうか。ここでは，「句の包摂」（時枝 1950）という観点から考察する。時枝（1950：154）は（22a）の例を挙げ，接尾辞「サ」について，「「ほめられたさ」で一語を構成してゐるのではなく，「あなたにほめられた」に附いたものと考へなくてはならない」としている。時枝（1950）に従うと，「あなたにほめられたさ」は，（22b）のように句を包摂する構造を持つものと捉えられる。

- (22) a. あなたにほめられたさにそんなことをするのです
b. [[あなたにほめられた]さ]

サニ構文の「～サ」が（22b）のような構造を持つことについては，（23）のような例で確認できる。（23）は「～サノ」「～サガ」に格助詞が現れる例である。（23a）の「飲食費や遊ぶ金が欲しさ」，（23b）の「それがしたさ」，（23c）の「中国に残した娘に会いたさ」については連体助詞「ノ」に接続することから，また，（24）については格助詞「ガ」に接続することから，それぞれ接尾辞「サ」が句を包摂する形でひとまとまりになったものと解釈できる。以上のことから，サニ構文の「～サ」は接尾辞「サ」が句を包摂する構造を持つと分析する。

- (23) a. 3グループの犯行は計 65 件，被害は損壊額を含め計約 530 万円に上っている。いずれも飲食費や遊ぶ金が欲しさの犯行といい，全員が容疑を認めている。
(『毎日』2002年8月3日，地方版／香川)
- b. 樽ころさんは本当の酒好きが多い。炊き立てのあつあつの御飯にお酒をかけて，お茶（酒）漬けをする。こんなおいしいものはな

い、それがしたさの樽ころがしだが、これに噓（む）せたら大苦しみだそうだ。

（『朝日』1997年1月26日，朝刊）

- c. 中国に残した娘に会いたさの狂言とわかり，両親らが逮捕されて裁判中だ。

（『朝日』1987年5月29日，朝刊）

- (24) 今年中継した日本のテレビも，BBCの落ち着いた客観的な報道に比べるとあまりにも日本選手に勝ってほしさがにじみ出ていたように思う。

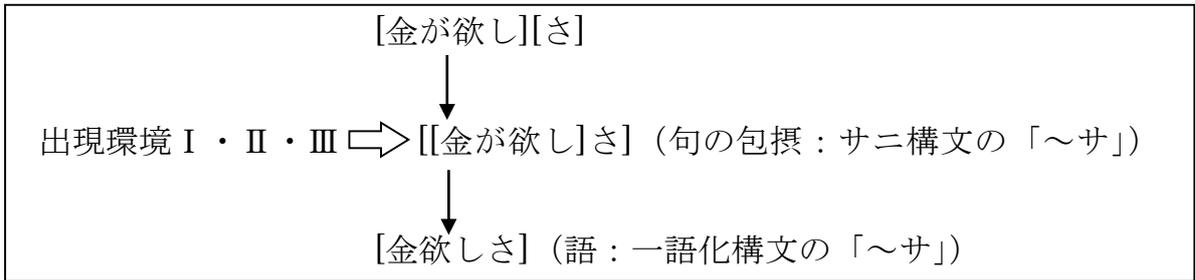
（『朝日』1992年7月10日，夕刊）

8. おわりに

本章では，現代語におけるサニ構文並びに一語化構文について実例の調査を行い，「～サニ」における統語構造（単文構造，補文構造）と名詞句の性質（名詞修飾の有無，指示代名詞）に着目して考察した。その結果，サニ構文が出現しやすい環境として，①「～サニ」を構成する用言が補文構造を持つ場合，②「～サニ」を構成する用言がとる名詞句に名詞修飾がある場合（出現環境Ⅱ），③補文内の動詞のとる名詞句が指示代名詞である場合（出現環境Ⅲ），という三つがあることが明らかになった。

サニ構文の出現環境とサニ構文・一語化構文の「～サ」の関係について模式的に示すと，図1のようになる。図1は，接尾辞「サ」による一語化の流れの中で，行き着く先が一語化構文の「～サ」であることと，出現環境Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの影響を受けることによって一連の中間段階であるはずのものがサニ構文の「～サ」として成立することを示している。よって，「～サ」の内部形成に着目すると，出現環境Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの影響により句の包摂化したものがサニ構文であり，接尾辞「サ」の機能により一語化したものが一語化構文であると捉えられる。

図1 サニ構文の出現環境とサニ構文・一語化構文の「～サ」



本章では、原因・理由を表す「～サニ」を「名詞（～サ）＋助詞（ニ）」と捉えたが、サニ構文の歴史的展開を論じた竹内（2005）では、15世紀に「サニ」が接続助詞として「語彙化」し、原因・理由の意味を持つようになったと見られている。一方、現代語のサニ構文の「～サニ」における原因・理由の意味が「名詞＋ニ」で表されているとすると、原因・理由の意味は助詞「ニ」に求められるように思う。助詞「ニ」と原因・理由の意味との関係は明らかでなく、この問題については今後の課題としたい。また、格助詞が現れる「～サ」を包括的に捉え、語の資格について考察を行いたい。語の内部では格助詞などの「機能範疇」は関与しないのが一般的であるが（影山1993）、「既成の単語又は語幹或は語根に附属して単語たらしむるもの」（山田1936：571）とされる接尾辞の一般性質（接頭辞とともに接辞として総括して述べられたもの）からすると、格助詞が現れる「～サ」は語としての資格を持ちうると考えられる。格助詞が現れる「～サ」を「句の包摂」現象全体の中に位置付けるとともに、「～サ」全般の検討を行う必要があるだろう。

第5章

形容詞語幹型感動文の構造

1. はじめに

本章では、(1) のような話し手の感動を表出する形式について、形容詞語幹が声門閉鎖を伴って発話され、感動の意味が表現上実現する文（形容詞語幹型感動文と呼ぶ）と規定し、考察対象とする。

- (1) (パソコンを横から見て)「薄っ!」(片手で持ち上げ)「軽っ!」
(カフェで店員に「閉店です」と言われ、バッテリーの持ちについて)「長っ!」

(富士通「FMV」のCM, 柴咲コウ)

現代語の感動文については、いわゆる山田文法における「中心たる體言と連體格」を「構成上の必要条件」とする「感動喚体句」の規定（山田 1936）を踏まえて、形式・構造に支えられた感動表出の文と捉える¹。形容詞語幹型感動文については、「感動喚体句」の形式に基づく感動文の1タイプとして位置付けている、笹井（2005, 2006）の分類（2.1節で言及する）を受けて議論を進める。

形容詞語幹型感動文を扱った先行研究において、その構造の観点からは、「句的体言」の構造による分析（笹井 2005, 2006）と「小節」の構造による分析（今野 2012）という異なる二つの分析が注目される²。前者では、形

¹ 山田（1936）以後、現代語の感動文においては、体言（名詞）形式を抛り所とした考察が多くなされている（安達（2002）、大鹿（1988, 1989）、尾上（1986, 1998）、笹井（2005, 2006）など）。

² 今野（2012）は、形容詞語幹型感動文を「イ落ち構文」と呼び、形容詞語幹が末尾に声門閉鎖「っ」を伴って発話され、形容詞終止形活用語尾「い」が脱落したものと捉えている。これ

容詞語幹そのものが体言資格を持つこと、属性を表す働きを持つ形容詞が体言性のある語幹の形式で運用されることから、「感動喚体句」(山田 1936)と同等の形式を持つものとして捉えられている。後者では、「対象名詞が現れることができる」とする冨樫(2006)の指摘および「おじいちゃん若っ。」「これうまっ。」の例をもとに主語一述語構造のみを持つとされ、埋め込み文にできないことから「小節」が主節として用いられる「root small clause」(Progovac 2006)の一種と見做されている。

両者において注意したいのは、「主語」の分析についてである。それは、前者では「感動の対象」としての「主語」が形式上示されないとされているのに対し、後者では「主語」を必ず認める統語構造が仮定されているからである。

以下では、形容詞語幹型感動文について、先行研究で指摘されている事実関係を明らかにし、収集した用例をもとに新しい事実も加えて考察する。次節で、先行研究を概観してその問題を示し、第3節で、「これうまっ。」における「これ」のような、今野(2012)が「主語」と分析している共起要素(以下、主語的共起要素と呼ぶ)を伴うものと伴わないものとの間に見られる性質の違いを指摘し、第4節で、主語的共起要素の扱いについて述べる。第5節では形容詞の性質の違い(属性形容詞か感情形容詞か)の観点から形容詞語幹型感動文の分類を行い、形式と統語構造の関係を示す。さらに、感情形容詞によるものが使われにくいという事実について考察する。

2. 形容詞語幹型感動文と「主語」の分析

この節では、笹井(2005, 2006)と今野(2012)における形容詞語幹型感動文の「主語」の分析について確認し、構造上の「主語」の問題を指摘する³。

に対し立石(2012)は、音韻論の観点から、語末の促音を「事象の臨場性の体験」を表現する形態素と見做し、「い落ち」の実際は促音の付加であり、形容詞に限定されない、より一般的な言語現象と捉えている。本章は、語末の促音の機能・役割の問題には立ち入らない。なお、形容詞語幹型感動文の「声門閉鎖を伴って発話される」という規定は今野(2012)を受けたものだが、本章では形容詞の語幹用法を議論することが目的であるため、実際の発音上声門閉鎖を伴うか伴わないかという問題は扱わない。

³ 笹井(2005, 2006)における(「感動の対象」としての)「主語」と、今野(2012)における(「小節」の)「主語」とは、異なる概念であることを注意しておく(前者は「句的体言」にお

2.1 「句的体言」の構造による分析

「熱！」のような形容詞語幹型感動文について、笹井（2005, 2006）は、感動文の一つのタイプに位置付けている。笹井（2005, 2006）は、感動文を「あゝ山中の青葉のうつくしさよ。」のような山田（1936）における「感動喚体句」と同じ構造、具体的には、川端（1965）の理解に従い「句的な体言（句的体言）」の構造（「山中の青葉がうつくしいコト」）を持つものとして把握している。

(2) は、笹井（2005, 2006）において示された感動文のバリエーションである。「感動の対象」としての「主語」については、(2a, b, c) は示すのに対し、(2d, e) は示さないと観察されている（ただし、(2b) は「感動の対象」が眼前にある場合には示さないこともあるとされる）。

- (2) a. 逆述語タイプ：美しい花！
- b. 「(～の) -こと」タイプ：(この花の) 美しいこと！
- c. 「～の-さ」タイプ：この花の美しさ！彼の演奏のこの優雅さ！
- d. 形容詞語幹・形容動詞語幹タイプ：熱（あつ）！きれい！
- e. 形容動詞連体形タイプ：ばかな！

今問題としている形容詞語幹型感動文が含まれる (2d) に関しては、「感動の対象は形式に示されず」（笹井 2005：14）と述べられている⁴。笹井（2005, 2006）に従うと、「これうまっ。」における「これ」のような主語的共起要素は構造上の「主語」ではなく、形容詞語幹型感動文の構成要素ではないものとして扱わなければならないということになる。

ける「述語」に対する体言、後者は A（形容詞）を「主要部」とする AP（形容詞句）の「指定部」の位置を占める名詞句）。ただし、「これうまっ。」のような現象における「主語」を問題とする場合には、両者で言う「主語」の範囲が重なるため、構造上の「主語」として同列に扱う。

⁴ 形容詞語幹を形容動詞語幹と同様に体言として扱うことについては永野（1951）などで、形容詞語幹の独立性および名詞として用いられることについては飯豊（1973）などで述べられている。

2.2 「小節」の構造による分析

今野 (2012) は, (3a) のような「形容詞を述語とする単文一般の統語構造」を仮定し, 「おじいちゃん若っ。」「これうまっ。」のような例によって, 形容詞語幹型感動文は主語－述語構造のみを備えた「SC (小節)」の構造を持つとしている。具体的には, Stowell (1983) の提案に従って, 述語の語彙範疇 (実際には形容詞語幹) が「小節」の投射を決定すると仮定し, (3b) の統語構造を提案している (今野 2012 : 15)。「主語名詞句」は省略可能とされている。

- (3) a. [CP... [TP... [NegP... [SC...]]]]
b. [AP [*埋め込み] (主語名詞句) 形容詞語幹 [+声門閉鎖]]

今野 (2012) は (3b) の有する統語特性, すなわち Neg, T, C を持たないという三点に関連付けて, 非文となる事実を観察している。

- (4) a. Neg (否定辞) の欠如 : 否定化を許さない
b. T (時制辞) の欠如 : ①終助詞の付加を許さない, ②「主語」を導入できても, その「主語」に主格 (ガ格) を付与できない
c. C (補文化辞) の欠如 : 主題化, 疑問化を許さない

(4a) に関しては, 「*寒くなっ。」のような例の非文法性から, Neg を欠くとしている。(4b①) に関しては, 「*うま (っ) {なあ/よ}。」の非文法性から終止形活用語尾を欠くとし, 形容詞終止形活用語尾が持つ統語的時制辞という役割 (Nishiyama 1999) を踏まえて T を欠くと分析している。

(4b②) に関しては, 主格 (ガ格) 付与には T が必要であるという分析 (竹沢 1998 など) を援用して, 形容詞語幹型感動文の「主語」に主格を付与できないことを予測し, 「*おじいちゃんが若っ。」のような事実から, T が存在しないとしている。(4c) に関しては一般に C と関連すると考えられている現象 (主題化, 疑問化) を取り上げ, 「*おじいちゃんは若っ。」のような主題化の事実, 「*この部屋臭っ?」のような疑問化の事実から C を欠くと説明している。

2.3 構造上の「主語」の問題

今野（2012）に従うと、主語的共起要素は構造上の「主語」ということになるが、今野（2012）の提示する統語構造には、原理上および応用上の問題が含まれているように思われる。それぞれ二点ずつ指摘する。

原理上の問題に関しては、第一に、「これうまっ。」における「これ」のようなものが構造上の「主語」であることを示す直接的な議論を行っていないことがある。今野（2012）は形容詞語幹型感動文について、「主語」を持つことを前提としたまま、「小節が主節を成す統語的に「不完全な」構文」としているが、「主語」だけは持つという理由・根拠を示す必要があると考えられる。

第二に、形容詞語幹を語彙範疇の形容詞として認定し、AP（形容詞句）の構造をとる（＝形容詞語幹が AP の「主要部」である）としていることがある。活用語尾が欠落した形容詞語幹は、形態上語性を持つと言えず、実際（4）の事実が示しているように統語的な機能・役割を持たないと思われる。形容詞語幹は、活用語尾をとってはじめて「主要部」として AP を形成する語彙範疇の形容詞となるのである。すなわち、形容詞語幹がそのまま語彙範疇の形容詞としての機能を持つとは思われない。従って、形容詞語幹を語彙範疇の形容詞として認定し、（3b）のような統語構造を仮定することは形容詞語幹の実態に即していないように思われる。もし形容詞語幹を語彙範疇の形容詞と捉えるのであれば、形容詞語幹が統語的な機能・役割を持ち得ることを議論する必要があるだろう。

応用上の問題に関しては、第一に、形式的に「主語」を想定できない形容詞語幹型感動文の存在をどのように説明するかということがある。今野（2012）は（3b）の統語構造を仮定した上で、実際の文では「主語名詞句」が省略された形で多く現れると説明している。次の（5）の用例では、今野（2012）に従うと、何らかの「主語名詞句」が省略されていることになる。

- (5) 先日、駅で上りエスカレーターに乗っていたら、突然ガンッと頭に衝撃が走った。何が起こったか理解できず、無意識のうちに「痛っ」と声を発していた。

（『朝日』2010年6月24日、朝刊、オピニオン2）

しかし、(5) の用例において、「痛っ」に「主語名詞句」を想定することはできない。聞き手が「主語名詞句」として、例えば、頭、首を想定できたとしても、「頭に衝撃」のみがあり、痛みの対象がない状況の発話で、話し手が「主語名詞句」を省略したとは考えられないからである⁵。

第二に、「主語名詞句」の省略に関して、例えば、形容詞語幹型感動文を連続して発話する用例から見て問題がある。(6) は、主語的共起要素を伴わないものと伴うものという順番をとる用例である。今野 (2012) に従うと、(6) の用例では最初の「うまっ」が「主語名詞句」を持つので、「これ、うまっ！これ、うまっ！」のような連続における一番目の「これ」が省略されていることになる。

(6) a. (ハンバーガーを食べて) 「うまっ...」 「コレうまっ...」

『ハカセ』

b. 岩倉にあるブルージュのフレンチトースト！！Y 様が以前から語られていた一品です。お洒落なおてんちょにはお洒落なパンがよく似合う...しかしグルメなおてんちょの口に合うでしょうか...うまっ！！これ、うまっ！！

(<http://ameblo.jp/eirin-daigo/entry-11537821685.html>)

一方、もう一つの可能性として二番目の「これ」を省略する場合も考えられる。この場合、表現上の価値は異なったとしても発話内容は同じであり、従って言いやすさも同じになることが予想される。しかし、実例では (6) のような用例に対して、「これ、うまっ！うまっ！」のような主語的共起要素を伴うものと伴わないものという順番の用例は一般的に見出されにくい。ただし、「これ、うまっ」の後に長めの間 (ま) を置いて、もう一度うまさを再発見・再認識した後、改めて「うまっ」と表出するようなことは可能である⁶。例えば (7) では、「これうまっ」の後にうまさを改めて実感すると

⁵ 三上 (1953 : 144) において「語幹用法の『ア痛！ア熱！オウ寒！』の如きは「何処ガ」とも「何ガ」とも言添える余裕のないものである」とされているように、形容詞語幹が単独で発話されていると考えるのが妥当であろう。

⁶ 「長めの間」については、主語的共起要素を伴わないものと伴うものという順番においては不問であるが（「うまっ！（長めの間／瞬時に）これ、うまっ！」）、主語的共起要素を伴うものと伴わないものという順番においては必ず置かなければならず（「これ、うまっ！（長めの

というような間が想定されることから、主語的共起要素を伴うものと伴わないものという順番で現われ得ると考えられる。

なお、「goo ブログ検索」による調査（2013年8月10日）においては、「うまっ！これ，うまっ！」の順番の用例は20例（(6b)を含む）確認できたのに対し、「これ，うまっ！うまっ！」の順番の用例は(7)の1例以外は確認できなかった。

- (7) 私はお酒は飲まないのですが、主人が「これうまっ うまっ!」と言って休日あわせて2日で、2本（筆者注：サントリーの「-196°C ROCK STYLE2種2本セット」）とも空けてしまいましたー お店で飲んでるような気分にはたれるようで、大満足してました♪
(<http://ameblo.jp/honori-a/entry-11519011261.html>)

(7) は長めの間が想定される点で限られた場面の使用と言える。そして(6)のような主語的共起要素を伴わないものと伴うものという順番の発話が一般的であるという事実は、「主語名詞句」の省略では説明できないものである。

以上のことから、構造上の「主語」を仮定する「小節」の構造（今野2012）は、問題点を含むと考えられる。では、(6)と(7)との文法性の差はどのように捉えればよいのであろうか。以下、意味的特徴の考察においてこれを説明する。

3. 主語的共起要素を伴う場合と伴わない場合

この節では、即応性と対他性の観点から、主語的共起要素を伴う場合と伴わない場合の性質の違いを述べる。

3.1 即応性

岩崎・大野（2007）は「話者がコミュニケーションの現場において瞬時

間) うまっ!」), 瞬時に発話すれば不自然になると考えられる。

に（つまり「即時的」に）発する文」を「即時文」と呼び、その中に「熱！」のような形容詞語幹型感動文を位置付けている。本章では主語的共起要素を伴わない形容詞語幹型感動文は、発話が話し手の事態の把握に即応しているという性質、すなわち即応性を持つと捉える。「瞬時性」「即時性」ではなく即応性と把握するのは、時間的な問題ではなく、話し手の側から、事態の把握に即応して発話されるかどうかという点に注目するからである。これに対して、主語的共起要素を伴う形容詞語幹型感動文は、即応性を持たないと考えられる⁷。両者の違いを、同じビールのCMの(8a, b)によって例示する。

- (8) a. (ビールを一口飲み一息吐いた直後)「うんまっ!」
b. (ビールを三口飲んだ後、目をつむって上を向いて)「あーっ」
(右手のグラスを見ながら)「これ、うまっ!」
(サントリー「ザ・プレミアムモルツ」のCM, 木村拓哉)

(8a) はビールを飲んで間を置かない発話であるが、(8b) は一定の間を置いての発話である。(8b) では、感動詞「あーっ」が使われていることも注目される。話し手は「ビールのうまさ」を実感した後に、感動詞「あーっ」を発していると考えられる。「ああ」という感動詞については、「心の中から比較的ゆっくりと沸き上がってくる感情」、「新たな事態との遭遇における急激な反射的反応とは違って、(たとえ何らかの事態との遭遇をそれ以前に経験していたにせよ) 内的な情意の動きとして、一定の間をもって発せられるもの」とされている(森山1996: 54)。このような感動詞の使用は、両者の性質の違いを裏付けている⁸。

なお、(6) と (7) の文法性の差は、即応性の観点から説明することができる。即応性の有無によって、主語的共起要素を伴わないものと伴うものとの間には発話における相対的な時間差が生まれる。この相対的な時間差によ

⁷本章で収集している用例によれば、実際の場面において即応性があると分析できるもので、主語的共起要素を伴うものはなかった。なお、一口食べた瞬間に「これ、うまっ!」と発話することも可能だという指摘もあるが、このような発話は、対他性(3.2節で述べる)の観点から、聞き手により早く伝達を行おうとするような場合に自然になると考えられる。

⁸感動詞「ああ」の使用に関しては、例えばビールのうまさを予期して飲む場合、瞬間的にそのうまさを把握できたのであれば、「ああ、ビールうまっ!」というように即時に「ああ」と発話できることから、単に時間だけの問題ではなく、事態の把握ができていかどうかの問題であると考えられる。

って、より時間をかけて発話され得る主語的共起要素を伴うものが二番目に来る(6)のような例は自然になり、そうでない例は、(7)のような限られた場面の使用を除いて不自然になると考えられる。

3.2 対他性

主語的共起要素を伴わない形容詞語幹型感動文は、「文に示されている情報についての伝達を目的とはしない、話し手の感動を表出する文」の一つと捉えられているように(笹井 2006: 16-17)、聞き手の存在は不問である。実際に、(9)のように聞き手が存在しないと考えられる場合にも、(10)のように聞き手が存在する場合にも使われる。

- (9) a. (冷蔵庫を開けた直後)「臭っ!」
(エステー「脱臭炭」のCM)
- b. (パソコンを使って)「速っ!」
(イー・モバイル「LTE」のCM, 板野友美)
- c. (駐屯地パンノニアの古い浴場につかって)「寒っ!!」
『テルマエ』
- (10) a. (カフェのマスターが髪をほどき、胸まできた髪を両手で掻き上げるのを見て)「長っ!」
(ブリヂストン「BLIZZAK」のCM, 石原さとみ)
- b. [漁師の家に松本潤が招待され、岩もずくを振る舞われる] 漁師「噛んで欲しいんや、この音」松本(シャキシヤキと噛んで)「うまっ!!」
(日本テレビ『24時間テレビ』「ダーツの旅」, 2012年8月25日放送)
- c. 田村さんは、黒い液体の入った500ミリリットルのペットボトルを配った。「うわ、くさっ」。ふたを開けた子どもたちが鼻をつまんだ。中身は液肥。
(『朝日』2008年6月15日, 朝刊, 教育1)

これに対して主語的共起要素を伴う形容詞語幹型感動文は、発話に聞き手

が存在するという性質，すなわち対他性を持つと考えられる⁹。主語的共起要素を伴うものには，聞き手が存在するという共通性が見られる。

- (11) a. (細身のスーツを着た男性に対して)「あつ，スーツ細っ!いいじゃん，ありだよ，あり」
(AOKI「もてスリム」のCM，上戸彩)
- b. [テリーとフレッドは，依頼人クレアの元夫に対する慰謝料請求のための計算をしている]テリー「この3ページある文書もクレアの監修。メモとか訂正箇所がいっぱいある。1ページに2時間かかったとして，時給400ドルだと…」フレッド(即座に)「2400ドル」テリー「計算，はやっ!」
(『私はラブ・リーガル』「危険なバッド・ガール」日本語吹き替えテレビ版)
- c. 「スカート長っ!暑苦しい!」。尾形さんは昨年5月ごろ，下校中の電車の中で，短いスカートの見知らぬ女子高生に言われた。
(『朝日』2004年1月7日，朝刊，山形2)
- d. [昼食の時間に，ヨリコだけ別のテーブルで自分が中心となって作ったカレーを食べている。グループの他のメンバー(ケント，アイカ，ミナミ，アツシ)は怒った様子でカレーを食べている]ケント(大声で)「あ〜!ニンジン生煮えじゃん!」(ヨリコは聞き耳を立てている)アイカの声「だから入れない方がいいってアイカは言ったの」ケントの声「これ，まっず!」
(NHK『時々迷々』「友達ランキング」2013年5月24日放送)

(11a) では「細身のスーツを着た男性」，(11b) では「テリー」，(11c) では「尾形さん」，(11d) では「アイカ，ミナミ，アツシ，ヨリコ」が聞き手として存在している。(11d) においては，話し手である「ケント」が，

⁹ 対他性に関しても，即応性の場合と同様に，本章で収集している用例に基づいて判断している。なお，(8b) などは聞き手が存在しない独話的状況だと考えても問題ないという指摘もあるが，独話的状況で主語的共起要素を伴うのは，例えば，異なる種類のお酒(A, B, C)を順番に飲んでいるというような状況で，限定を表すような場合であると考えられる(「(Aを飲んで)まっずっ!(Bを飲んで)まっずっ!(Cを飲んで)あつ，これ，うまっ!」)。この限定性については，対他性とも関連付けて今後詳細に検討したい。

カレー作りの責任者であることから別のテーブルに座っている「ヨリコ」にも、「まっず！」というように心が動く対象が「これ（カレー）」であることを伝えようとしていることが注目される。(11)の例から、話し手は事態の把握についての情報を意図的に聞き手に与えようとして、主語的共起要素を伴う形容詞語幹型感動文を用いると考えられる¹⁰。

なお、形容詞語幹型感動文そのものは純粋な表出であり、聞き手を前提としないことから、「主語的共起要素＋形容詞語幹型感動文」全体ではなく、主語的共起要素の側で対他性を持つと考えられることを注意しておく。主語的共起要素には(11d)および次の(12)のように指示詞を観察することができるが、このことを主語的共起要素が対他性を持つことの傍証として挙げる。

(12) a. 「この落花生、でかっ！」

(読売テレビ『秘密のケンミンSHOW』

「連続転勤ドラマ」2014年3月27日放送)

- b. 私も第一印象はおとなしい子だなと思っていたら娘をよびに家にくると、「マジやばい」「それキモ¹¹!」「っていうかバカじゃない」と玄関先で娘に強く言っていてビックリしました。

(<http://okwave.jp/qa/q6171100.html>)

- c. トロカデロ広場☆☆あの車、小さっ!!

(<http://4travel.jp/travelogue/10175363>)

(11d)と(12)が示すように、主語的共起要素における指示詞は、いわゆる「直示用法」で用いられる。「直示用法」の指示詞は話し手と聞き手との関連性に基づいて使われる¹²。主語的共起要素に「直示用法」の指示詞が

¹⁰ 森山(1996: 52-53)では、感動詞について「その意味の中心が対他的な発話であるかどうか」という点で、「対他的でない」と「対他的」なものの二つに分類している。その判別基準は「一人で発話できるかどうか」という点とされている。一人で発話できるもの(「対他的でない」もの)は「情動的側面が意味の中心」になっており、原則として一人で発話して不自然になるもの(「対他的」なもの)は「他者に対する伝達機能をもつ」とされている。主語的共起要素を伴う形容詞語幹型感動文について、実際の場面で一人で発話されないという事実は、これが情報伝達の機能を持つことを示している。

¹¹ 「きもい(キモい)」は「気持(が)悪い」の略語である。

¹² コ系・ア系の場合、独り言での使用を考えると、聞き手の存在が必須とは言えないという指

現れるという事実から、主語的共起要素の側で聞き手との関連性を持つ、すなわち対他性を持つと考えられる。田中（1981：5）は「一般に、ある種の言語形式の持つ、「発話の場にいなければ十分な理解ができない」という性質」を「ダイクシス（deixis）」と呼び、そのような性質を持つ言語形式を「ダイクシス語（deictic word）」と呼んでいる。(11d)の「これ」、(12a)の「この落花生」、(12b)の「それ」、(12c)の「あの車」は典型的な「ダイクシス語」である。これと平行的して、(11a)の「スーツ」、(11b)の「計算」、(11c)の「スカート」のように指示詞が現れない形式も、聞き手が発話の場にいることによって正確に理解ができるという点で「ダイクシス語」として働いていると考えられる。

以上を踏まえて、主語的共起要素全般において対他性を持つと考える。話し手の側からは、聞き手に情報伝達を行うために、対他性を持つ要素として主語的共起要素を付け加えると捉えられる。

4. 形容詞語幹型感動文の主語的共起要素の扱い

前節の観察により、主語的共起要素を伴わない場合と伴う場合では性質の違いがあることが分かった。この性質の違いを主語的共起要素の省略の有無で説明することはできない。従って、主語的共起要素について、今野（2012）の分析のように構造上の「主語」とすることは妥当でないと考えられる。

では、「これ、うまっ！」のような発話において、主語的共起要素（「これ」）はどのようなものとして扱うべきであろうか。本章では、「感動の対象」の提示であると捉える。具体的には、話し手が何について感動しているのかを発話の冒頭で指定し、聞き手に注意喚起を呼び掛ける名詞句であると考えられる。よって、主語的共起要素を伴う場合は提示部を持つ形容詞語幹型感動文、主語的共起要素を伴わない場合は提示部を持たない形容詞語幹型感動文と捉え直す（以下、主語的共起要素を提示部と言い直す）¹³。

摘もあるが、「直示用法」の指示詞は原則として聞き手が必要な機構のもとで使用されることが考えられる。主語的共起要素を持つ形容詞語幹型感動文の用例においては、ソ系（12b）も現れることから、機構上聞き手の存在が必須とされていると分析できる。このことは、主語的共起要素に指示詞が現れる事例において必ず聞き手が想定できるという事実からも裏付けられる。

¹³ 提示部は、構造的に形容詞語幹型感動文の「主語」ではないものの、「主語」と解釈してし

なお、提示部に関して、(13)におけるように発話の冒頭に現れる場合と、(14)におけるように発話の末尾に現れる場合は、「感動の対象」を提示するという意味では同じであるが、表現上の価値は異なることを述べておく。

(13) [金田一と佐木は、韓国人留学生のキムに名物のアヒルの水かきとカエルの姿焼きを勧められる。ただしキムはこれらを食べられない]
佐木「そんならキムさんも無理なものどうして注文したんすか」キム「日本の人って、こういう所に来ると、とにかく、名物ってというのが、好きみたいだから。だめでしたか？」佐木「はい。気持ちはありがたくってことで」(金田一を見て)「えっ！」金田一(恐る恐る一口かじった後、両手でつまんだ水かきを見つめて)「水かき、うまっ!」佐木「食べるんかい」((14)に続く)

(14) 金田一「キムさんもどうぞほらっ、ほらほらっ」キム「えっ、僕もですか？」佐木「すいません、無視してください」キム(一口食べて)「うんまっ、これ!」佐木「あんたもかい」金田一(キムに向かって)「でしょでしょー」キム(金田一に向かって)「ですよねー」

(日本テレビ『金田一少年の事件簿 香港九龍財宝殺人事件』

2013年1月12日放送)

(13)の「水かき、うまっ！」における冒頭の「水かき」と比較すると、(14)の「うんまっ、これ！」における末尾の「これ」は、聞き手に積極的に注意喚起を呼び掛けるというより、話し手が何を対象として感動の表出をしたのかを、自分自身で再確認するというようなニュアンスを帯びると考えられる。

もう可能性がある。以下の「靴下、汗くっさっ！」からは「靴下が汗臭いこと」という解釈が得られる(「汗臭い」は「黴臭い」「きな臭い」などと同様に一語として扱う)。

息子「ただいまー」ママ「ちょーっと待ったっ！」(息子が玄関に上がる前に抱え上げて、靴下のおいを嗅ぐ)「やっぱり、靴下、汗くっさっ!」(P&G「レノア plus」のCM)

この場合、話し手が「主語－述語」を発話したわけではなく、聞き手の側で連続する要素を結び付けて、「主語－述語」のように変換して理解したに過ぎないと考えられる。また、この「靴下」は、「(においのもとを探ると)やっぱり、靴下(だ)。汗くっさっ!」のように、「靴下だ」から「だ」を抜いた言い方、すなわち「不完全叙述」(芳賀 1978)の述語として用いられていると考えることもできる。

5. 形容詞語幹型感動文の分類と構造

この節では、前節までの考察を踏まえて、形容詞の性質の違い（属性形容詞か感情形容詞か）の観点から形容詞語幹型感動文を整理し、統語構造を提示する。形容詞語幹型感動文は、それを構成する形容詞の性質の違いによって、

A. 属性形容詞によるもの（以下、属性形容詞語幹型と呼ぶ）

B. 感情形容詞によるもの（以下、感情形容詞語幹型と呼ぶ）

の二種に大別される。先行研究で記述されてきたものは、形容詞の性質から見て、属性形容詞語幹型に位置付けることができる¹⁴。一方、感情形容詞語幹型はこれまでほとんど取り上げられていないものである。

感情形容詞語幹型については「アァ、水ガ飲ミタ！」（三上 1959 : 232）という例が指摘されている（ここでは「飲みたい」のような希望形「-たい」も感情形容詞として同列に扱う）。これに対し富樫（2006 : 脚注 8）は、「現在の内省では、（主格が標示されていることも含めて）おそらく許容されないだろう」と述べている。確かに感情形容詞語幹型は普通に現れるものではないが、現代語において出現が確認できるため、検討する必要がある。以下では、「欲しい」「恋しい」「-たい」による感情形容詞語幹型について、実例を挙げて見ていく¹⁵。

「欲しい」「恋しい」「-たい」による感情形容詞語幹型を観察してみると、感情形容詞のとり「対象 (Theme)」の意味役割を持つ名詞句（以下、対象名詞句と呼ぶ）とともに出現するようである。この対象名詞句には、(15) のようにガ格を伴う場合と、(16) のようにガ格を伴わない場合がある。

- (15) a. 出会いが欲しい。それもケ・ン・チ・ク・カと——。メディアへの露出激増で、身近になった建築家。自宅の設計を任せたい方も少なくないことでしょう。なんせ一生の買い物、肝心なのは出会

¹⁴ ここでは、「痛っ!」「寒っ!」などの感情形容詞の下位区分とされる「感覚形容詞」（西尾 1972）による例も、属性形容詞として使われていると見做す。このことは、「いわゆる感情の形容詞のほとんどは、いわゆる感情の直接表出の文の中だけでなく、対象の一般的性質を述べるのにも使い得る」（寺村 1982 : 151）とされることから、妥当性があると考えられる。

¹⁵ 「欲しい」「恋しい」「-たい」を分析対象としたのは、用例が多いことによる。これらは、「感情の直接的表出」（寺村 1982）に本来的に使われる感情形容詞である。

いです。

(『朝日』2007年1月31日，朝刊，生活2)

- b. エアコンに慣れきった人間がエアコン無しでは生きていけない！
「扇風機で乗り切れるんじゃない!?」って大見栄切ってたのに...。
これほど無力だったとは...。あー，エアコンが欲しっ！！

(<http://ameblo.jp/hm83232/entry-11569972579.html>)

- c. あ〜ハワイ行きたいなあ あの匂いとゆるさが恋しっ

(<http://ameblo.jp/1209-0829/entry-11749083769.html>)

- d. DS lite が欲しいです (今までのバイト代を使っちゃみたいくらい羨望しています。銀魂のゲームがやりたっ！！！！とって
もやりたいんです！！！！！！)

(<http://blog.livedoor.jp/agletou/archives/2006-12.html>)

- e. 酒，お酒が，飲みたっ，，。

(<http://ameblo.jp/gon---blo/entry-11398356867.html>)

- (16) a. 「何事もなく無事結婚式を迎えられますように」「〇〇といつまでも，永くうまくいきますように」といった，恋愛や結婚を願う絵馬も多い。「素敵な彼女が欲しい」「彼氏ほしっ！！」などとは，いかにも現代の若者らしい。

(『毎日』2000年1月27日，地方版，愛知)

- b. で，何故か，ストームクルーザーの今年度モデルを試着なんてしたり っって，軽っ！！！！これ欲しっ！！！！

(<http://slow-trek.blogspot.jp/2011/07/minutes.html>)

- c. 初めて，イタリア人から日本のお土産（筆者注：温泉まんじゅう）をいただきました さっそく，緑茶を入れていただきましたよ〜
ああ...日本恋しっ！温泉恋しっ！

(<http://ameblo.jp/firenzefungo/entry-10824746455.html>)

- d. 朝 9 : 00 頃起きて来た娘が急に『マック（筆者注：マクドナルドのハンバーガー）食いたっ』と言いだし...

(<http://ameblo.jp/703-7-11/entry-11533856092.html>)

- e. しかし，蒸しますな。。。 ビール飲みたっっ！！てなことで またです。

(<http://chum2011.com/2012/06/24/12475/>)

(15) と (16) では、(16) のようなガ格を伴わないものが一般的に現れるようであるが、(15) のような例は、インターネット上で少なからず観察でき、(15a) のように新聞にも現れることなどから、(16) とともに許容されるものと考えられる。なお、感情形容詞語幹型は、(17a) のように対象名詞句をとらない場合は成立せず、また、(17b) のように感情形容詞のとする「感情主 (Experiencer)」の意味役割を持つ名詞句、すなわち「主語」(具体的には話し手の「私」) を省略しない場合も成立しない。

(17) a. *欲しっ。*恋しっ。*飲みたっ。

b. *私 (は／が) {彼氏 (が) 欲しっ。日本 (が) 恋しっ。酒 (が) 飲みたっ。}

よって、形容詞語幹型感動文は二種三類 (属性形容詞語幹型、感情形容詞語幹型ガ格標示有、感情形容詞語幹ガ格標示無) に分類できる。先行研究では体言形式という観点から感動文が分析されている。本章のように、形容詞語幹型感動文について、感動文の1タイプと見做すならば、その形式はどのように特徴付けられるのだろうか。

本章では、感動文として機能する形容詞語幹について、単純な体言ではなく、体言性と形容詞が本来表す属性が一体化した、感動表出の場面でのみ現れる体言化形式 (Nominalization) と分析する。この立場で山田 (1936) を取り上げ、捉えてみると次のようになる。山田 (1936) は、「感動喚体句」の構成上の必要条件を「中心たる體言と連體格」としているが、「連體格」に関しては、笹井 (2005, 2006) の分析をもとに、「属性概念を持つ語」と捉え直す。笹井 (2005, 2006) では、感動文が「属性概念を持つ語+体言」の構造を持ち、「属性概念を持つ語」が感動文の本質的な意味 (「程度の甚だしさ」) を表現するとしている。このことから、「連體格」をとることの本質を「属性概念を持つ語」をとることであると押さえると、形容詞語幹型感動文においては「中心たる體言=連體格」の場合と言え、属性概念を持つ体言化形式によって構成上の必要条件が満たされていると捉えられる。ここまでの考察をまとめ、形容詞語幹型感動文の形式と統語構造の関係を示せば、(18) のようになる。

(18) a. 属性形容詞語幹型

[Nominalization 属性形容詞語幹]

([NP 「感動の対象¹⁶」]) [NP 属性形容詞語幹 [+声門閉鎖]]

b. 感情形容詞語幹型

[Nominalization 対象名詞句 [+主格] 感情形容詞語幹]

①ガ格標示有

[NP 対象名詞句ガ 感情形容詞語幹 [+声門閉鎖]]

②ガ格標示無

[NP 対象名詞句Φ 感情形容詞語幹 [+声門閉鎖]]

(18a) では、属性形容詞語幹が単独で体言化形式として成立し、それが名詞句として用いられる。その際、「感動の対象」の提示は任意である（任意性を丸括弧で示してある）。(18b) では、感情形容詞の持つ格関係が反映している対象名詞句（[+主格] で示す）と感情形容詞語幹が全体で体言形式として成立し、それが名詞句（①ガ格標示を伴う場合と②伴わない場合がある）として用いられる。

本章では、形容詞語幹型感動文を二種に大別しているが、属性形容詞語幹型も感情形容詞語幹型も体言化形式に支えられ、名詞句として感動の表出に用いられるという点で同じ感動文として機能すると捉える。

(18b①) の統語構造においては、この名詞句内でガ格が標示されるメカニズムを示す必要があるが、この点は今後改めて論じたい¹⁷。ただし、感情形容詞の対象名詞句のガ格に関しては、T（時制辞）とは別に扱うべきであると考えられる。(19) のような、形容詞語幹が述語として機能している例を挙げる（なお、(19) は第 4 章において接尾辞「サ」が句を包摂する構造を持つと分析した例である）。

(19) a. 3 グループの犯行は計 65 件、被害は損壊額を含め計約 530 万円

¹⁶ 「感動の対象」は、いわゆる「対象語」（時枝 1941）のことを指して言っているのではない。

¹⁷ 影山（1993）は、統語構造で抽象的な素性の形で存在する構造格が音韻部門で具現化されるという立場で、「名詞句の中の構造格」という考え方を提案し、動名詞（verbal noun）の分析を行っている。

に上っている。いずれも「飲食費や遊ぶ金が欲し」の犯行といい、全員が容疑を認めている。

（『毎日』2002年8月3日，地方版／香川）

- b. 樽ころさんは本当の酒好きが多い。炊き立てのあつあつの御飯にお酒をかけて，お茶（酒）漬けをする。こんなおいしいものはない，「それがした」の樽ころがしたが，これに噓（む）せたら大苦しみだそうだ。

（『朝日』1997年1月26日，朝刊）

（19a）の「飲食費や遊ぶ金が欲し」，（19b）の「それがした」における感情形容詞（「欲しい」「したい」）には，接尾辞「サ」が付加していることから，時制辞の存在しない環境でガ格が標示されている例と見ることができる。このことから，感情形容詞は，時制辞によらず対象名詞句にガ格を付与することができると考えられる¹⁸。

（18）で提示した形式と統語構造によって，先行研究で指摘されてきた事実が客観的に説明できる。例えば，今野（2012）で説明された（4）の特徴のうち，（4b）の T（時制辞）の欠如と（4c）の C（補文化辞）の欠如に関連付けられる事実については，体言化形式に時制辞や補文化辞といった典型的な機能範疇が含まれないことから説明できる。

（4a）の Neg（否定辞）の欠如に関連付けられる事実とその説明においては，（20）のような今野（2012：8）で取り上げられている例が問題となるが，（18）によって別の観点から客観的に説明できる。（4a）に関して，今野（2012）は「*寒くなっ。」「*臭くなっ。」の非文法性から否定辞を欠くと分析する一方で，反例となり得る（20）のデータについて，以下のように処理している（文法性の提示は今野（2012）による）。

¹⁸ 言語獲得におけるガ格標示の観点からも，「ガ格付与には時制辞が必要である」という分析が不十分であることが示唆される。幼児のガ格標示に関して，團迫（2010）は，ガ格が現れない段階（Stage I），対象（Theme）の意味役割を持つ名詞句に対してのみガ格が標示される段階（Stage II），意味役割の種類に関係なくガ格が標示される段階（Stage III）があるとしている（ただし，團迫（2010）そのものは，「時制辞と主格の獲得」という観点による研究である）。対象の意味役割を持つ名詞句のガ格標示が先立って観察されるという事実は，ガ格標示のメカニズムが名詞句のとり意味役割によって異なるという可能性を示すものである。

(20) ok/*かわいくなっ。

(20) においては、容認する話者も存在するが、その場合は「かわいくない」における「ない」をその場しのぎ的 (ad hoc) に「語彙化」させているとし、「つまんない」において「語彙化された要素」と分析される「ない」と同列に扱っている。

このような今野 (2012) の議論に対して、形容詞語幹型感動文の否定化が許されないのは、感動文の基本的な特徴によると考えられる。感動文は「対象現前性」を持ち (笹井 2005, 笹井 2006), 従って眼前の事態にではなく、不在に感動するということはない。このような特徴によって、否定化が一般には許されないと言える。このことは、英語の典型的な「感嘆文」(感嘆詞「how」または「what」を用いるもの) が否定形になることができないという特徴を持つこと (今井・中島 1978 : 203 など) から裏付けられる。一方、(20) のような否定化は、肯定的な事態が存在する場面において成立すると考えられる。

- (21) a. アイドルの「小田さくら」について) 去年のヘブンイベントではじめて見たときは「かわいくなっ」って思ったけど、最近、急にかわいくなってきたと思う 個人的には娘。(筆者注: アイドルグループの「モーニング娘。’) 11 期候補 (エッグ枠) の筆頭 (<http://ameblo.jp/werdna0411/entry-11350963635.html>)
- b. ピザポテト焼きそば (筆者注: エースコックの「カルビーピザポテト味焼そば」), おいしくなっっっ!
(<http://ameblo.jp/mamimumemoemoe/entry-11351992658.html>)

(21a) においては、「かわいくなっ」についての感動の対象 (「小田さくら」) はアイドルであり、この心内語としての発話以前に、肯定的な事態 (「小田さくらがかわいいこと」) が把握されていたと考えられる。(21b) の感動の対象 (「ピザポテト焼きそば」) も同様に、人気の「ピザポテト」が焼きそばで再現されたものであることから、肯定的な事態 (「ピザポテト焼きそばがおいしいこと」) があらかじめ把握されていたと考えられる。よって、肯定的な事態が存在していることにより、否定化が成立すると捉えられ

る。

(21) のような例は限られた場面で否定化が可能であることを示しており、否定辞の欠如という観点から「ない」が「語彙化」されていると分析するような例外的なものではない。本章の立場では、体言化において、形式上否定化が許されていることによると捉えられる。

以上のことから、今野 (2012) の提案する統語構造による説明に対して、(18) のような形式と統語構造の関係からの説明は、より妥当性が高いと考えられる。

ところで、属性形容詞語幹型と比較すると感情形容詞語幹型ははるかに使われにくい。この事実の背景にあると考えられるものについて二点指摘しておく。第一に、「感動の対象」として働く対象名詞句をとるという特徴である。属性形容詞語幹型において、「感動の対象」の提示自体に対他性が結び付く (3.2 節) ということを踏まえると、感情形容詞語幹型には形式上、対他性が備わっていると言える。そのため、感情形容詞語幹型は、聞き手に意図して「感動の対象」を伝えるというような対他的な状況で使われ、そうでなければ使われないと考えられる。

第二に、感動文の根本的な性質と関連しない、分析的に派生されるという構成である。(15) のようにガ格が現れるということは、感情形容詞語幹型が格標示を伴った統語構造から派生したものであることを示している¹⁹。感動文は、山田 (1936) における「感動喚体句」によると、根本的に「一元性」を有するものである。感情形容詞語幹型は対象名詞句と形容詞語幹から分析的に構成されるという点で一元的とは言えず、基本的な形式ではないので使われにくいと考えられる。以上の二点は、感情形容詞語幹型が統語的性質を持つという観点からまとめられる²⁰。

¹⁹ 属性形容詞語幹型においてガ格が現れる実例もある (立ち話に興じる飼い主の足元で退屈そうな 2 匹に目がとまる。「お前の母ちゃん、話が長っ!」「君のママこそ昨日と同じ話してんじやん」。『朝日』2012 年 1 月 6 日、朝刊、オピニオン 2)。この用例においては、「話」を「感動の対象」として「長いこと」に感動しているのではなく「お前の母ちゃん」を「感動の対象」として「話が長いこと」に感動していること、「話が長い」の意味が「うっとうしい」「うざりたい」のように解釈できることなどから、「話が長い」全体で一語の形容詞として用いられていると考えられる。従って、「話が長っ!」のガ格は語の一部と考えられ、感情形容詞語幹型における対象名詞句を標示するガ格とは別個に扱うことができる。

²⁰ 感情形容詞語幹型に統語的性質が認められるということは、それを構成する感情形容詞の統語構造が反映しているためだと考えられる。感情形容詞の特性に関して、感情形容詞語幹型がガ格を伴う対象名詞句とともに用いられることと平行的に考えると、ガ格を伴う対象名詞句を

6. おわりに

本章では、現代語における形容詞語幹型感動文について、主語的共起要素が構造上の「主語」ではなく、「感動の対象」の提示部と考えられることを述べ、さらに形容詞の性質の違いの観点から、属性形容詞語幹型と感情形容詞語幹型の二種に大別し、形式と統語構造の関係を示した。感情形容詞語幹型については、ガ格を伴う場合と伴わない場合があることを指摘したが、この現象は、第4章で考察対象としたサニ構文と関連付けることができるように思われる。影山（1993）は（22a）のようなサニ構文における「酒代がほしさ」は接尾辞「サ」が格助詞を伴った統語構造（「酒代が欲し」）に付いたものであり、これが「複合化」することで（22b）における「酒代欲しさ」という複合語が成立すると分析している。

- (22) a. 男は、酒代が欲しさに強盗をはたらいた。
b. 男は、酒代欲しさに強盗をはたらいた。

サニ構文については、青木（2010）において、構成することのできる用言が感情形容詞の「欲しい」「-たい」にほぼ限られ、格助詞を標示すること自体が非常にまれであることが指摘されている²¹。感情形容詞によるものに格標示が観察され、格標示されない形式が基本的であるという点は、感情形容詞語幹型とサニ構文に共通する。このことから、感情形容詞語幹型に（22a→b）のような語形成を仮定することも可能であるように思われる。格標示されない感情形容詞語幹型がある種の複合語であるならば、感情形容詞語幹型とサニ構文の両者を統一的に扱うことができる。ただし、接尾辞「サ」のような名詞化辞を明示的にとらないという相違点および複合語としての資格の問題もあるため、その詳細については今後の課題としたい。

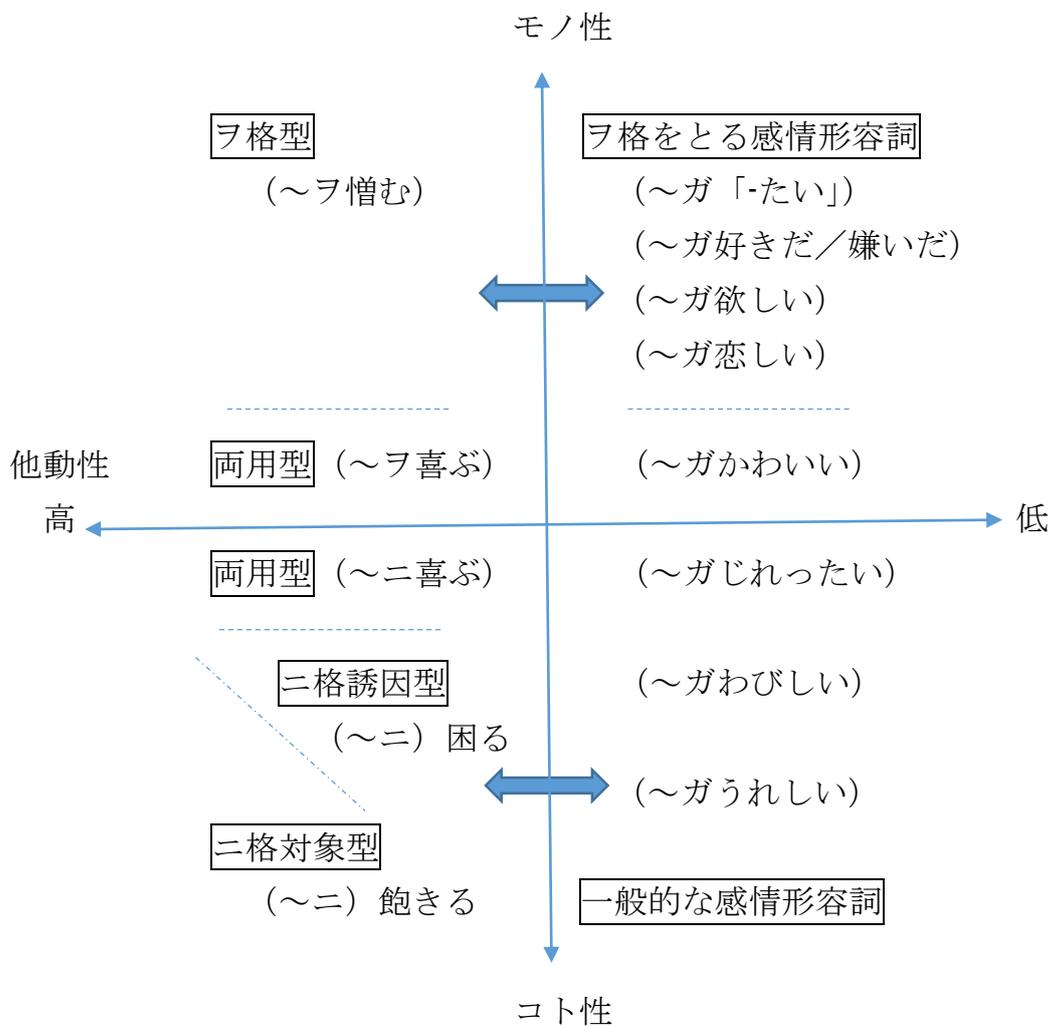
とることになり感情形容詞の本質があるように思われる。感情形容詞と対象名詞句の関係については、本研究のまとめで示す。

²¹ 第4章では、新聞を主としたデータベースを用いた調査によって、サニ構文を構成するのは「-たい」にほぼ限られること、（22b）のような格助詞の現れない形式が基本的であることを示した。

まとめ

本研究では、周边的あるいは特異な現象のみに焦点を当て、それらの形式と意味を検討しているという点で、扱っている言語現象の範囲は限られている。しかし、それぞれの考察で得られた結果を総合すると、次のような全体像を描けるのではないかとと思われる。

図1 感情用言の全体像



ここでは、横軸に「他動性」の高低をとり、縦軸に「対象／誘因」におけるモノ性とコト性の別をとっている（「対象」と「誘因」は区別せずに捉える）。横軸の「他動性」は第 3 章の考察で着目したものであり、縦軸の「対象／誘因」におけるモノ性とコト性の別は第 2 章と第 3 章の考察で着目したものである。また、矢印は感情動詞と感情形容詞の交渉を示している。

感情用言の境界および各部分の位置付けをまとめたものが次の (1) から (4) である。

- (1) 感情形容詞は「対象／誘因」のモノ性が高いもの（ヲ格をとる感情形容詞）が一つのグループをなし、相対的にコト性が高いものとの境界をなしている。
- (2) 感情動詞は「対象／誘因」のモノ性が高いもの（ヲ格型）、中間のもの（両用型）、コト性が相対的に高いもの（ニ格誘因型、ニ格対象型）に大別される。ニ格誘因型とニ格対象型はコト性の高さ与他動性の高さによってさらに分けられる。
- (3) ヲ格をとる感情形容詞とヲ格型はモノ性の高い「対象／誘因」をとるという共通性があり、両者の交渉はヲ格を通して現れる。
- (4) ニ格誘因型・ニ格対象型と感情形容詞一般はコト性の高い「対象／誘因」をとるという共通性があり、両者の交渉はガ格を通して現れる。

以上で描いた全体像をもとにした具体的な考察については、今後の課題としたい。

なお、本論文を構成する第 1 章は清水（2007）、第 3 章は清水（2013）、第 4 章は清水（2011）に一部加筆・修正を施し、まとめ直したものである。

引用文献

- 安達太郎（2002）「現代日本語の感嘆文をめぐって」『広島女子大学国際文化学部紀要』
10, pp.107-121. 県立広島女子大学.
- 青木博史（2003）「「～サニ」構文の史的展開」『日本語文法』3(1), pp.83-99, 日本語
文法学会.
- 青木博史（2010）『語形成から見た日本語文法史』ひつじ書房.
- 飯豊毅一（1973）「形容詞・形容動詞の語幹・各活用形の用法」『品詞別日本文法講座
4 形容詞・形容動詞』明治書院.
- 今井邦彦・中島平三（1978）『現代の英文法 第5巻 文（Ⅱ）』研究社出版.
- 岩崎勝一・大野剛（2007）「「即時文」・「非即時文」—言語学の方法論と既成概念—」
串田秀也・定延利之・伝康晴（編）『時間の中の文と発話』pp.135-157. ひつじ書
房.
- 井上和子（1976）『変形文法と日本語』（上），大修館書店.
- 大鹿薫久（1988）「感動文の構造—句と文についての把握—」『國語國文学ことばとこ
とのほ 第5集』96-101. 和泉書院.
- 大鹿薫久（1989）「感動文の構造（承前）—句と文についての把握—」『國語國文学
ことばとことのは 第6集』pp.77-82. 和泉書院.
- 尾上圭介（1986）「感嘆文と希求・命令文—喚体・述体概念の有効性—」『松村明教授
古希記念国語研究論集』pp.555-582. 明治書院.
- 尾上圭介（1998）「一語文の用法—“イマ・ココ”を離れない文の検討のために—」『東
京大学国語研究室創設百周年記念国語研究論集』pp.888-908. 汲古書院.
- 影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房.
- 川端善明（1965）「喚体と述体の交渉—希望表現における述語の層について—」『国語
学』63, pp.34-49.
- 川端善明（1976）「用言」『岩波講座日本語6 文法Ⅰ』pp.169-217, 岩波書店.
- 川端善明（1979）『活用の研究Ⅱ』大修館書店.
- 川本崇雄（1977）「日本語の形容詞活用の起源—特に南島語と対比して—」『国語と国
文学』54(8), pp.41-54.
- 木村敏（1982）『時間と自己』中公新書.

- 工藤真由美（1995）『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房.
- 工藤真由美（2014）『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』ひつじ書房.
- 久野暲（1973）『日本文法研究』大修館書店.
- 小竹直子・酒井 弘（2011）「心理動詞による属性文の意味的成立条件」『日本語文法』11(1), pp.20-36.
- 小矢野哲夫（1985）「形容詞のとり格」『日本語学』4(3), pp.21-28, 明治書院.
- 今野弘章（2012）「イ落ち一形と意味のインターフェイスの観点から—」『言語研究』141, pp.5-31.
- 三枝令子（2011）「感情を表す動詞「困る」が示すテンス・アスペクト」『一橋大学国際教育センター紀要』2, pp.13-22.
- 佐藤響子（1997）「二格名詞句をとる心理動詞」『横浜市立大学論叢人文科学系列』48, pp.117-138.
- 笹井香（2005）「現代語の感動喚体句の構造と形式」『日本文藝研究』57(2), pp.1-21. 関西学院大学日本文学会.
- 笹井香（2006）「現代語の感動文の構造—「なんと」型感動文の構造をめぐって—」『日本語の研究』2(1), pp.16-31.
- 柴谷方良（1978）『日本語の分析』大修館書店.
- 清水泰行（2007）「心理動詞の格と意味役割の対応・ずれ—「引用構文」における名詞句と引用節の意味関係から—」『日本文藝研究』58(4), pp.23-39. 関西学院大学日本文学会.
- 清水泰行（2011）「現代語におけるサニ構文と語形成」『日本文藝研究』62(2), pp.1-20. 関西学院大学日本文学会.
- 清水泰行（2013）「現代語における感情形容詞のヲ格と語構成」『日本語文法』13(1), pp.20-36.
- 新屋映子（1995）「「彼女を好きだ」という言い方—感情形容詞の他動性について—」『桜美林論集 一般教育篇』22, pp.93-103.
- 杉岡洋子（1992）「心理述語についての考察」『慶応義塾大学言語文化研究所紀要』24, pp.361-373.
- 杉本武（1991）「二格をとる自動詞—準他動詞と受動詞—」, 仁田義雄(編)『日本語のヴォイスと他動性』pp.233-250, くろしお出版.
- 竹内史郎（2005）「サニ構文の成立・展開と助詞サニについて」『日本語の研究』1(1),

- pp.2-17, 日本語学会.
- 竹沢幸一 (1998) 「格の役割と構造」中右実 (編) 『格と語順と統語構造』 pp.1-102. 研究社.
- 立石浩一 (2012) 「「い落ち」表現を端緒とする言語学的諸問題」『論集』 59(2), pp.159-168. 神戸女学院大学.
- 田中望 (1981) 「「コソア」をめぐる諸問題」『日本語の指示詞』(日本語教育指導参考書 8), pp.1-50, 国立国語研究所.
- 田村すゞ子 (1969) 「日本語の他動詞の希望形・可能形と助詞」『早稲田大学語学教育研究所紀要』 8, pp.16-33.
- 田村すゞ子 (1971) 「対象語に「が」を伴わしめる語について」『早稲田大学語学教育研究所紀要』 10, pp.28-52.
- 團迫雅彦 (2010) 「獲得初期段階における未指定の機能範疇—日本語の時制辞と主格の獲得から—」『九州大学言語学論集』 31, pp.147-157. 九州大学大学院人文科学研究院言語学研究室.
- 寺村秀夫 (1981) 「「モノ」と「コト」 馬淵和夫博士退官記念国語学論集刊行会 (編) 『馬淵和夫博士退官記念国語学論集』 pp.743-763, 大修館書店. (くろしお出版 『寺村秀夫論文集 I—日本語文法編—』 所収)
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 第 I 巻』 くろしお出版.
- 富樫純一 (2006) 「形容詞語幹単独用法について—その制約と心的手続き—」『日本語学会 2006 年度春季大会予稿集』 pp.165-172.
- 時枝誠記 (1936) 「語の意味の体系的組織は可能であるか—此の問題の由来とその解決に必要な準備的調査—」『日本文学研究』 京城帝大法文学会. (岩波書店 『言語本質論』 所収)
- 時枝誠記 (1941) 『国語学原論』 岩波書店.
- 時枝誠記 (1950a) 『古典解釈のための日本文法』(日本文学教養講座第 14 巻) 至文堂.
- 時枝誠記 (1950b) 『日本語文法口語篇』 岩波書店.
- 外崎淑子 (2000) 「状態述語の経験者と統語構造」『神田外語大学大学院紀要 言語科学研究』 6, pp.1-16.
- 永野賢 (1951) 「言語過程における形容詞の取り扱いについて」『国語学』 6, pp.54-64.
- 西尾寅弥 (国立国語研究所) (1972) 『形容詞の意味・用法の記述的研究』, 国立国語研究所報告 44, 秀英出版.

- 野田尚史 (1991a) 「日本語の受動化と使役化の対称性」, 『文藝言語研究・言語篇』 19, pp. 31-51, 筑波大学文芸・言語学系.
- 野田尚史 (1991b) 「文法的なヴォイスと語彙的なヴォイスの関係」, 仁田義雄(編) 『日本語のヴォイスと他動性』 pp.211-232, くろしお出版.
- 野村雅昭 (1977) 「造語法」 『日本語 9 語彙と意味』 pp.245-284, 岩波書店.
- 芳賀綏 (1978) 『現代日本語の文法—日本文法教室・新訂版—』 教育出版.
- 蜂矢真郷 (2012) 「上代の形容詞」 『萬葉』 212, pp.1-35, 萬葉学会.
- 林浩恵 (2004) 「上代・中古に見られる形容詞派生の動詞—形容詞における意味分類との関連を中心に—」 国語語彙史研究会 (編) 『国語語彙史の研究』 23, pp.223-242, 和泉書院.
- 廣松渉 (1975) 「物と事との存在的区別—語法を手掛りにしての予備作業—」 『理想』 509, pp.29-50. (勁草書房『もの・こと・ことば』所収)
- 藤田保幸 (2000) 『国語引用構文の研究』 和泉書院.
- 堀川 智也 (1992) 「心理動詞のアスペクト」 『言語文化部紀要』 21, pp.187-202.
- 益岡隆志 (1987) 『命題の文法』 くろしお出版.
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法—改訂版—』 くろしお出版.
- 眞野美穂 (2008) 「状態文の時間性と叙述の類型」 『叙述類型論』 pp.67-92. くろしお出版.
- 三上章 (1953) 『現代語法序説—シンタクスの試み—』 刀江書院. (復刊 1972 くろしお出版)
- 三上章 (1959) 『構文の研究』 東洋大学博士学位論文 (くろしお出版 2002).
- 水谷静夫 (1964) 「話を終わる」と「話を終える」 森岡健二・永野賢・宮地裕・市川孝 (編) 『口語文法講座 3 ゆれている文法』 pp.45-60, 明治書院.
- 南不二男 (1993) 『現代日本語文法の輪郭』 大修館書店.
- 三原健一 (1994) 『日本語の統語構造—生成文法理論とその応用—』 松柏社.
- 三原健一 (2000) 「日本語心理動詞の適切な扱いに向けて」 『日本語科学』 8, pp.54-75.
- 三原健一 (2004) 『アスペクト解釈と統語現象』 松柏社.
- 森岡健二 (1987) 『現代語研究シリーズ 1 語彙の形成』, 明治書院.
- 森山卓郎 (1996) 「情動的感動詞考」 『語文』 65, pp.51-62. 大阪大学国語国文学会.
- 柳田征司 (1977) 「原因・理由を表す「～サニ」の成立と衰退—「史記抄」を資料として—」 『近代語研究』 (第五集), pp.103-127, 武蔵野書院.

- 山岡政紀 (2000) 『日本語の述語と文機能』 くろしお出版.
- 山崎馨 (1984) 「形容詞とは何か」 鈴木一彦・林巨樹 (編) 『用言編 (二) 形容詞形容動詞』 (研究資料日本文法第3巻) pp.1-17, 明治書院.
- 山田巖 (1964) 「「水が飲みたい」と「水を飲みたい」」 森岡健二・永野賢・宮地裕・市川孝 (編) 『講座現代語 6 口語文法の問題点』 pp.332-338, 明治書院.
- 山田孝雄 (1936) 『日本文法学概論』 寶文館.
- 湯澤幸吉郎 (1929) 『室町時代の言語研究』 大岡山書店.
- 湯澤幸吉郎 (1944) 『現代語法の諸問題』 日本語教育振興会. (勉誠社『湯澤幸吉郎著作集 3 現代語法の諸問題』として復刻)
- Bando, Michiko(1996) Semantic Properties of *-Ni* NP and *-O* NP of Japanese Psych-Verbs. 『大阪大学言語文化学』 5, pp.165-177.
- Hopper, Paul J. and Thompson, Sandra A. (1980) Transitivity in Grammar and Discourse. *Language* 56(2), pp.251-299.
- Postal, Paul M. (1969) Anaphoric Islands. *CLS* 5, pp.205-239.
- Sadakane, Kumi and Masatoshi Koizumi (1995) On the nature of the “dative” particle *ni* in Japanese. *Linguistics* 33(1), pp.5-33.
- Stowell, Tim (1983) Subjects across categories. *The Linguistic Review* 2: 285-312.
- Progovac, Ljiliana (2006) The syntax of nonsententials: Small clauses and phrases at the root. In Ljiljana Progovac, Kate Paesani, Eugenia Casielles, and Ellen Barton (eds.) *The syntax of nonsententials: Multi-disciplinary perspectives*, pp.33-71. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.

用例出典

テレビ番組・CMなどのテレビからの例については本文中で典拠を示す。ブログなどのインターネット上の例については本文中に URL を示しているが、画像・絵文字を省略するなどし、読みやすく整えた部分がある。

『朝日』：朝日新聞社『聞蔵Ⅱ ビジュアル』（『朝日 DNA～聞蔵（きくぞう）～』）

『BCCWJ』：国立国語研究所『少納言 KOTONOHA 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」 検索デモンストレーション』

『テルマエ』：ヤマザキマリ『テルマエ・ロマエⅢ』エンターブレイン

『ハカセ』：実験太朗・立花美月『研究者マンガ ハカセといふ生物（いきもの）』技術評論社

『毎日』：毎日新聞社『毎索』（『毎日 News パック』）

『読売』：読売新聞社『ヨミダス歴史館』（『ヨミダス文書館』）